



きらめき未来塾 2013

～次世代を担う高校生のために～

報 告 書

2013年11月

きらめき未来塾事務局

目 次

1.	お礼とご報告	1
2.	名誉塾長挨拶	2
3.	発起人代表挨拶	3
4.	開催概要	4-5
5.	カリキュラムについて	6
(1)	カリキュラム概要	6
(2)	カリキュラム表	7
(3)	ディスカッションテーマ・事前学習について	8
(4)	推薦図書一覧	9
6.	講師紹介・インタビュー	10-14
7.	カリキュラム活動報告	
(5)	講義	15-21
(6)	チームミーティング	22-25
(7)	レクリエーション	26-28
(8)	パネルディスカッション	29-30
(9)	OBセッション	30-31
(10)	野外学習	31-33
8.	塾生について	34-35
9.	サポーターについて・サポーターからの意見	35-37
10.	塾生の声	38-39
11.	保護者の声	40-41
12.	事務局活動	42
13.	事務局総括	43
14.	後援・協賛・理事会	44-45
15.	プレス・リリース	46
16.	スタッフ・サポーター	47

1. お礼とご報告

きらめき未来塾 2013 は、平成 25 年 8 月 19 日から 8 月 23 日までの 4 泊 5 日の日程で昨年同様兵庫県洲本市の「ウェルネスパーク五色 浜千鳥館」を中心として行われました。

地元からの多大の歓迎を受けて開催となりましたが、開催にあたり、本年も兵庫県知事井戸敏三様から次のメッセージをいただきました。すなわち、

「きらめき未来塾 2013 が盛大に開催されますことを心からお祝いします。参加される高校生の皆さんは、各界第一人者の講義や集団生活を通じて自己を見つめることで、将来の夢や目標を考える素晴らしいきっかけを得ることでしょう。卒塾生から、次代の日本を担い支えるリーダーが生まれることを期待しますとともに、きらめき未来塾の今後ますますのご発展とご参集の皆様のご健勝でのご活躍を心からお祈りします。」

今回の開催は第 9 回目となり、また昨年と同じ場所での開催ということで、企画、設営、運営についても極めてスムーズに事がはこび充実した塾が開催されたものと評価しております。

講義内容を各界第一線でご活躍されている方々に講師を依頼し、いずれも情熱あふれるお話をいただき、塾生に対して大いなるインパクトを与えていただきました。

例年の如くリーダーとしての必須条件でもある自らの考えを率直に表現し、さらにコミュニケーション能力を高めるために、各講義の後には講義内容を題材とした討論、ミーティングの時間が設けられ、人間としての思索のプロセス、思考収斂の仕方、他との協調のあり方などの機会を設けました。これらの成果は塾生の感想文、また後日各自家庭に戻っての保護者との対話から生まれた保護者からの感想文にもその多くが語られております。

講義の内容、講師の方々のお名前は別掲のカリキュラム内容を参考としていただきたいと存じますが、いろいろなお立場から若人達に呼びかけ、自らを知り、将来に向けた強い意志構成に有意義な示唆に富むご講話がいただけた様です。

野外学習として大塚製菓様のご好意をいただき、徳島 鳴門の大塚国際美術館を訪問して世界の有数の芸術に触れる機会があり、最終日に行われたキャンプファイヤーでの交流と共に何時までも思い出に残る青春のひとときを送れたものと考えております。

このような素晴らしい機会がえられましたことには多くの方々の善意とご協力でもって支えていただいたものと心から深く感謝申し上げます。

まず、地元 竹内通弘市長、河上和慶教育長をはじめとする行政、教育界の皆様、淡路信用金庫会長 瀧川好美様、洲本商工会議所会頭 木下紘一様をはじめとする経済界の皆様のご援助、そして細やかな運営についてご配慮いただき、資金面ではこの趣旨にご賛同いただいた個人会員、法人会員の皆様の浄財をいただき、さらにご多忙なところご協力いただいた講師の方々、チームとして行動できるようにと親身になってお世話いただいたサポーターの皆様、一年かけて準備し、当日の円滑な運営に携わった事務局の皆様方、これらが一つ欠けても今回の成果は得られなかったと思い、皆様方に心から感謝の意を表したいと存じます。

明年は十回目という節目の年を迎えるにあたり、時代の流れに取り残されない様にと、役割分担も一新して、新しい企画を構築して行くことになっております。卒塾生も 700 名を越え、その中には社会人となったものも多く在ります。何時までもこれらの方々の心のふるさととなるべく事業の継続と発展を祈念しておりますので、今後もよろしく皆様のご理解とご支援をお願いします。

平成 25 年 10 月

認定 NPO 法人きらめき未来塾
理事長 齋藤 洋一

2. 名誉塾長挨拶

高校生のためのきらめき未来塾 2013 を開催して

2013 年度「きらめき未来塾」は 8 月 19 日～8 月 23 日の 5 日間、本年も兵庫県洲本市で開催いたしました。開催地洲本市をはじめ、近畿地区、広島、九州、関東、そして本年も東日本大震災の被災地東北から総勢 67 名の高校生が参加しました。

国難・危機の時代、リーダーの担うべき役割とは何であるか。私が考える理想的なリーダー像、真のリーダーとは、常に真実を語る勇気があり、あらゆる意見に耳を傾けながらも、自分の判断に自信を持って実行できる人であると思います。そして、自信を持って実行したことが、現実社会で成果を挙げられるように、他の人たちの心に火をつけ、インスパイアする魅力を備えている人です。

グローバル化の時代を迎え、今、企業が求める人材は異能・異才な人物です。つまり、異なった能力と才能をもった人です。なぜならば、解のない時代、課題解決能力が求められるからです。それにはどんな国で、どんな仕事でもできるマルチタイプの人間になれということです。

未来学者は、2030 年には現在のビジネスの 60%がなくなると予想しています。であるからこそ、どのような人生設計をすべきか、自ら描かなければなりません。

リーダーとなるためには何が必要であるかと考え、また一人ひとりが自分の「目標」や「夢」を持ち、それを実現する道筋を「気づき」「発見」する場が未来塾です。世界で活躍する社会人講師の講義やグループディスカッション、グループワークを通じ、将来の人生設計をするためのヒントを得たものと思います。

最終日の皆さんの顔には、夢と希望があふれ、充実感がみなぎっていました。5 日間という短い期間でしたが、講師の方々や仲間から刺激とアドバイスを受け、「新しい自分」と出会い、人生の目標を定めるための一歩を固めることができたのではないかと思います。

夢の実現に向けて－Never Give In！－自分との戦いに勝利する。

努力の積み重ねこそが天才や偉人をつくるのです。英国の元首相ウィンストン・チャーチルは、ドイツとの戦いで英国に勝利をもたらし、今や世界のリーダーとして有名です。そのチャーチルが、若い皆さんに発した言葉は、15 分のスピーチで 5 分間隔で「Never Give In (決してあきらめるな)」を 3 回繰り返しただけです。

この精神で、そして社会を少しでもよくしようという「使命感」と「勇気」を持って「好きと思えること」を決して諦めることなく挑戦し続けていただきたいと思います。

最後になりましたが、本年も「きらめき未来塾」が成功裏に終了いたしましたことをご報告申し上げます。開催にあたりまして兵庫県をはじめ、洲本市の皆様の全面的なご協力、ご支援を賜りましたことあらためてお礼申し上げます。あわせて、多くの企業団体、個人の皆様からご賛同、ご支援、ご協力を賜りましたことに改めて心より厚くお礼申し上げます。

「きらめき未来塾」は来年開塾 10 回目を迎えます。10 年間の集大成とすべくカリキュラム等の充実を図ってまいりたいと存じますので、引き続きご支援賜りますようお願い申し上げます。

きらめき未来塾 名誉塾長 大竹美喜

3. 発起人代表挨拶

第1回開催の広島での未来塾から数えて今回は9回目となるきらめき未来塾2013を、昨年と同様、兵庫県洲本市のウェルネスパーク五色で開催しました。山の緑に囲まれた瀟洒な研修会場、手入れの行き届いた芝生の広場、山小屋風のログハウス等、絵葉書に出てくるような美しい施設でした。本年も日本を支えるリーダーを育てるという当塾の開催趣旨に沿い、各界で第一人者として活躍されている方々を講師として招聘し熱心に講義をして頂きました。塾生は、大阪・兵庫・京都・東京・千葉・神奈川・岡山・広島・福岡・宮城の1都2府7県から、45校67名が参加しました。

開塾期間中の状況について、詳細に報告を受けていますが、今年の特徴として、

- ・ 塾生が例年以上に活発で、Q&A時の質問が多く、時間延長しても応じきれず、質問票に記載し後日講師から回答してもらうことにした。
- ・ 塾生のチーム内の融和協調をはかるため、共同作業として、今年は映像でチームのカラーを表現することにした。チーム全員でアイデアを出し合い役割分担して作成し、塾生間の絆が深まった。
- ・ 野外研修は美術館の見学であったので、より深く理解してもらうため、素養のある事務局スタッフ・サポーターが事前研修を実施した。これは塾生だけでなく、サポーター・事務局も加わって未来塾にかかわる者全員の向上をはかり、未来塾をより良きものにする、「a better Miraijuku」の考えの一環としてよい企画であった。

さて、未来塾の開催目的は、塾生には基本理念にあるような人材に育てて欲しい。そして、精一杯の努力を傾注し、抱いた夢を実現してもらいたいということです。夢の実現のため、京セラの創業者の稲盛和夫さんの著書にあった内容を紹介します。

それは、「考え方を変れば人生は180°変わるということで、『人生・仕事の結果＝能力×熱意×考え方』という方程式です。能力とは、才能・知能であり、多分に先天的な資質、熱意は、事をなそうとする情熱や努力すること、考え方は、心のあり方・生きる姿勢と置き換えることが出来ると思います。熱意は、自分の意思でコントロール出来るもので、最小から最大という幅があります。考え方は、プラス面からマイナス面もあります。能力・熱意に恵まれていても考え方の方向が間違っていれば、ネガティブな成果を招きます。」とありました。

正しい判断で、自分の能力を信じ、最大限の情熱を傾ける、これを続ければ夢を着実に実現出来るのではないのでしょうか。

4日目のBBQ、キャンプファイヤーは、地元洲本市河上教育長の励ましのお言葉をいただいたのち、楽しいパーティーとなりました。この時に各チームごとに競い合った部門ごとの表彰があり、大いに盛り上がりました。キャンプファイヤーでは、レクリーダーの素晴らしい技量、サポーターの活躍があり、暗くなった広場の中央で燃える火を中心にして、元気な声、大きな笑いが山にこだまし、楽しいひとときとなりました。

最後になりましたが、素晴らしい自然環境の中で、楽しく有意義な塾を開催出来ましたことは、講師の先生方、ご協賛賜りました多くの法人、個人の皆様のお陰です。そのご厚志に深く感謝申し上げます。また、洲本市長様はじめ、洲本市、同教育委員会の皆様にご多大ご尽力を賜りました。

開催期間中、塾生をサポートし、事務局の仕事をお手伝いしていただいた社会人・大学生14名の皆様、本当にありがとうございました。きらめき未来塾2013については、産経新聞、神戸新聞等々、多くのメディアに取り上げられたように多方面から高い評価をいただきました。

また、地元の多くの学校の先生方の見学、聴講していただくなど関心の高さがうかがえたかと思っています。

来年は未来塾を開催してから10回目となりますが、この節目の年にはさらに拡充発展させるべくいろいろ検討を重ねたいと考えています。引き続きご支援ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

認定NPO 法人きらめき未来塾
発起人代表 大石正守

4. 開催概要

(1) 開催日程 2013年8月19日(月)～8月23日(金) 4泊5日

(2) 開催施設 ウェルネスパーク五色



〒656-1301

兵庫県洲本市五色町都志 1087

TEL : 0799-33-1600 FAX : 0799-33-1603

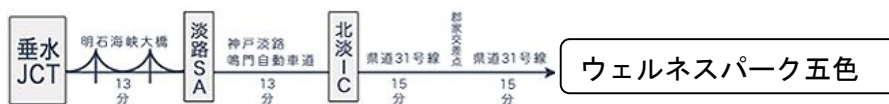
アクセス

① 電車・バスの場合

三宮から高速バス（淡路交通・神姫バス）高田屋嘉兵衛公園下車（約100分）

（※JR舞子駅で乗り換え、高速舞子からも乗車可）

② 車の場合



・大阪から100分 ・神戸から70分 ・北淡I.C.から30分 ・津名一宮I.C.から25分

(3) 参加人数 私立・公立高校の生徒 67名

大阪府 12名 兵庫県 23名 京都府 13名 東京都 3名

神奈川県 2名 千葉県 2名 岡山県 1名 広島県 6名

福岡県 1名 宮城県 4名

(4) 参加高校生所属校

【大阪府】

大阪府立阿倍野高等学校
大阪府立池田高等学校
大阪府立春日丘高等学校
関西学院千里国際高等部
好文学園女子高等学校
大阪府立佐野高等学校
大阪府立狭山高等学校
大阪府立東百舌鳥高等学校
大阪府立山本高等学校

【兵庫県】

兵庫県立相生高等学校
兵庫県立淡路高等学校
兵庫県立生野高等学校
兵庫県立伊丹北高等学校
兵庫県立伊丹高等学校
兵庫県立小野高等学校
兵庫県立柏原高等学校
兵庫県立加古川南高等学校
兵庫県立神戸高塚高等学校
兵庫県立須磨友が丘高等学校
兵庫県立洲本高等学校
兵庫県立宝塚北高等学校
兵庫県立津名高等学校
兵庫県立農業高等学校
兵庫県立播磨農業高等学校
日ノ本学園高等学校
柳学園高等学校
兵庫県立芦屋国際中等教育学校

【京都府】

京都府立鴨沂高等学校
京都橘高等学校
京都府立東稜高等学校
京都府立福知山高等学校
京都府立峰山高等学校
京都府立宮津高等学校
京都府立立西乙訓高等学校
立命館高等学校

【広島県】

呉市立呉高等学校
広島県立庄原実業高等学校

【宮城県】

宮城県佐沼高等学校
宮城県登米高等学校

【東京都】

東京都立北園高等学校
淑徳高等学校

【神奈川県】

神奈川県立大和高等学校

【千葉県】

千葉商科大付属高等学校

【岡山県】

明誠学院高等学校

【福岡県】

海星女子学院高等学校

(45校)

5. (1) カリキュラム概要

きらめき未来塾は、次の理念に基づき、国際社会、日本、地域社会で活躍する有能な人材、将来的に日本を担い支えるリーダーを養成すべく、カリキュラムを編成しています。

1. 志を抱き、実現に向け挑戦し続ける心強き人
2. 思いやりを持ち、共生できる心清き人
3. 歴史や文化を理解し、人間的魅力のある心深き人
4. 世界中の人とコミュニケーションできる心広き人
5. 強い責任感と行動力のある心熱き人

講義	ビジネス、医療、スポーツ、芸術など様々な分野から講師を招く。各講師の専門的知識や、経験をもとにした講義により、塾生に問題意識を持たせ、夢を見つけるきっかけや目標実現の指針を与える。
ディスカッション	講義後に、感想や疑問に思ったことを、塾生同士で意見交換する場を設けることにより、受け身で話を聞いているだけではなく、能動的な態度で講義にのぞみ、一人ひとりが自分で考え、発言する力を養う。
英語	国際化が進む社会において必須となる英語の重要性を認識する機会を設け、外国人講師の話す「生の英語」を聴くことで、英語への興味や英語力向上への意欲を持つきっかけとなるような時間を設ける。
チームミーティング	与えられた課題に対し、チームで意見を出し合い協力して取り組み、達成することによってチーム間でのコミュニケーションを深め、協調性を育てるとともに、創造性を深めリーダーシップを発揮する場とする。
レクリエーション 音楽	初対面同士の塾生の緊張を和らげ、話かけやすい雰囲気を作るとともに、明るく活発な人間的魅力を涵養する。また、融和協調をはかり、コミュニケーション力、団結力を高めることを目的とする。
野外学習	開催地の文化施設等の見学や、自然の中で活動を行うことによって、豊かな感受性と、自ら考え学ぶ力を身につける。また、集団の中でリーダーとして必要な自主・自立の精神、行動力を養う。
発表会	塾で学んだことを糧にし、自身で定めた将来の目標について決意表明を行う。自分の目標を堂々と人の前で発表する能力を養うとともに、夢の実現に向けての明確な意識を持たせることを目標とする。

◆ 塾生は9～10人程に組分けして、チームでの活動を基本とする。

◆ サポーターについて

塾生の学習や合宿生活は、若手社会人や大学生からなるサポーターがフォローを行い、身近な先輩として、塾生が夢を持ち目標をつくるためのアドバイスを行う。

【サポーターの役割】

① 塾生の学習のサポート

交代でチームを担当し、学習やチームミーティングのサポートを行う。

② 運営のサポート

カリキュラムを円滑に進めるため、講義の準備等を行う。

また、司会や、講師のインタビュー等も担当する。

③ 音楽、レクリエーション指導

それぞれ専門分野のサポーターが、朝の体操やキャンプファイヤー時のレクリエーションの企画、進行や合唱の指導等を行う。

(2) きらめき未来塾2013 カリキュラム

		8:00		9:00		10:00		11:00		12:00		13:00		14:00		15:00		16:00		17:00		18:00		19:00		20:00		21:00		22:00		23:00	
8/19 (月)	1日目	事務局	先発	会場設営 受け入れ準備																													
			同行																														
			サポーター	事務局 集合	サポーター 集合	塾生 集合	JR新大阪駅 バス出発	アイス ブレーキング 前田講師	研修 会場到着	昼食 荷物搬入	入塾式 理事長挨拶 来賓紹介 塾生宣誓 塾生心得	休憩	大竹名誉塾長 名誉塾長講話 「夢実現に向けて ～Never give in～」	休憩	講義1 織田講師 「アフメーションで 未来をきり拓く」	夕食	オリエンテーション	事務局・サポーター 打合せ・入浴・見回り															
			塾生	9:00	9:30	10:00	10:30	13:00～14:30	14:30～15:40	15:50～16:50	17:00～18:00	18:00～19:00	19:00～20:30	塾生 入浴・消灯		20:30～23:00																	
新大阪駅																																	
8/20 (火)	2日目	体操	朝食	チーム ミーティ ング	講義2 田中講師 「国内産業を支え るものづくりとは」	Q&A ディスカッ ション	休憩	講義3 高杉講師 「宇宙の成り立ち」	Q&A ディスカッ ション	昼食	チーム ミーティ ング	休憩	講義4 シエイ・デビッド 講師 「Stories To Improve Your English」	Q&A ディスカッ ション	休憩	講義5 辰野講師 「夢と冒険」	Q&A ディスカッ ション	夕食	「グローバル 人材とは」 佐野綾子 講師	パネルディスカッ ション	事務局・サポーター 打合せ・入浴・見回り												
		6:45 ～ 7:30	7:30～8:30	8:30～ 9:00	9:00～9:50	9:50～ 10:35	10:35 ～ 10:50	10:50～11:40	11:40～ 12:25	12:25～13:25	13:25～14:30	14:30 ～ 14:45	14:45～15:35	15:35～ 16:20	16:20 ～ 16:35	16:35～17:25	17:25～ 18:10	18:10～19:10	19:10～ 19:40	19:40～21:00	塾生 入浴・消灯		21:00～23:00										
8/21 (水)	3日目	体操	朝食	チーム ミーティ ング	講義6 森山講師 「ひとつの命が できるまで」	Q&A ディスカッ ション	休憩	講義7 黒岩講師 「夢を実現する チカラとは？」	Q&A ディスカッ ション	昼食	チーム ミーティ ング	休憩	講義8 鈴木講師 「卒近代の ソーシャル・ イノベーション」	Q&A ディスカッ ション	休憩	講義9 下垣講師 「日本とヨーロッパ の比較文化論」	Q&A ディスカッ ション	夕食	野外学習に関する内容 チームミーティング 等		事務局・サポーター 打合せ・入浴・見回り												
		6:45 ～ 7:30	7:30～8:30	8:30～ 9:00	9:00～9:50	9:50～ 10:35	10:35 ～ 10:50	10:50～11:40	11:40～ 12:25	12:25～13:25	13:25～14:30	14:30 ～ 14:45	14:45～15:35	15:35～ 16:20	16:20 ～ 16:35	16:35～17:25	17:25～ 18:10	18:10～19:10	19:10～21:00	塾生 入浴・消灯		21:00～23:00											
8/22 (木)	4日目	体操	朝食	チーム ミーティ ング	講義10 三木講師 「中国の諸事情」	Q&A ディスカッ ション	休憩	講義11 水野講師 「心は創るもの」	Q&A ディスカッ ション	昼食	チーム ミーティ ング	発表会	卒塾 証書授 与	副塾 長代 行挨拶	写真 撮影	休憩	チーム ミーティ ング (OBとのセッ ション)	バーベキュー & キャンプファイヤー		事務局・サポーター 打合せ・入浴・見回り													
		6:45 ～ 7:30	7:30～8:30	8:30～ 9:00	9:00～9:50	9:50～ 10:35	10:35 ～ 10:50	10:50～11:40	11:40～ 12:25	12:25～13:25	13:25～15:00	15:00～17:00		17:00 ～ 17:15	17:15～ 18:00	18:00～21:00	塾生 入浴・消灯		21:00～23:00														
8/23 (金)	5日目	帰途 準備	朝食	野外学習 大塚国際美術館 見学										14:15 淡路ハイウェイオアシス		15:45 新神戸 降車		16:45 新大阪 解散															
			7:30～8:30																														

※ 常に5分前行動で！

(3) ディスカッションテーマ・事前学習について

	講師名	講義テーマ	ディスカッションテーマ	事前学習しておくべきこと / 読んでおきたい本等
講義2	田中英成 講師	・国内産業を支えるものづくりとは	① 国内でものをつくる製造業の果たす役割 ② 円高がいいの？ 円安がいいの？ ③ 企業と文化の関わり	織田信長は何故、桶狭間の合戦を勝ち得たのか？ 東京電力は何故、あのような事故を起こしてしまったのか？ 未来のエネルギーには何があるだろうか？
講義3	高杉英一 講師	・宇宙の成り立ち	① アインシュタインの大後悔と復活についての感想 ラムダ Λ項や宇宙の組成をどう考えたらいいのだろうか？ ② 小柴博士の成功を参考に研究をするということはどういうことだろうか？ 運がよいとはどういうことなのか？ ③ ビッグバン(大爆発)の疑問は？ 宇宙の晴れ上がりより過去をみる方法はあるのか？ 私たちの宇宙以外の宇宙は存在するのか？	「宇宙は本当にひとつなのか」村山 斉 講談社ブルーバックス 「オリオン座はすでに消えている？」懸 秀彦 小学館101新書 「宇宙論」 二間瀬敏史 ナツメ社 図解雑学 「宇宙137億年の謎」 二間瀬敏史 ナツメ社 図解雑学
講義4	シェイ・デビッド 講師	・Stories to improve your English	① Write your own story ② Talk to your group ③ Report to everybody	
講義5	辰野 勇 講師	・夢と冒険	・私のチャレンジについて	
講義6	森山明宏 講師	・ひとつの命ができるまで	① 排卵 ② 受精 ③ 女性の神秘について	
講義8	鈴木 寛 講師	・卒近代のソーシャル・イノベーション	① 大量生産、消費、廃棄文明を卒業する ② 次なる時代を構想する ③ 次代を創る人材になるには	将来、何になりたいかではなく、どんなことを実現したいのか？ を各自1000時程度(多い分にはいくらでも可)で、 文章にまとめておく事。
講義9	下垣真希 講師	・日本とヨーロッパの比較文化論	① 日本のアイデンティティをどう守り発信するか ② 戦争と平和 ③ 命をかがやかせて生きるとは	ヨーロッパ地図を把握しておくこと
講義10	三木文夫 講師	・中国の諸事情	① 尖閣列島問題の解決方法 ② にせ物(コピー)商品の量産問題の解決方法 ③ 環境汚染問題の解決方法	中国の歴史
講義11	水野彌一 講師	・心は創るもの	・我何ぞや。どんな人生を生きるか、そのために今やれるべき事	時に自分の心が最大の敵。 強い人間とは自分に負けない人間。

(4) 参考図書

ご推薦いただいた講師名	書籍名	著者名	出版社名
大竹美喜 名誉塾長	逆境の中にこそ夢がある	蒲島邦夫	講談社
	世界で戦える人材の条件	渥美育子	(株)PHP研究所
黒岩祐治 講師	メッセージ力を高める黒岩の法則	黒岩祐治	飛鳥新社
	末期ガンと漢方	黒岩祐治	IDP新書
シェイ・デビッド 講師	Holes	Louis Sachar	Dell Yearling
鈴木 寛 講師	熟議のススメ	鈴木 寛	講談社
三木文夫 講師	日本と中国の本当の歴史	黄 文雄	徳間書店
水野彌一 講師	李陵	中島 敦	岩波文庫 ・ 新潮文庫
	武士道	新渡戸稲造	三笠書房
西澤良臣 事務局長	宇宙人としての生き方	松井孝典	岩波新書
	歴史とは何か	E.. H. カー	岩波新書

6. 講師紹介

<p>名誉塾長 おおたけよしき 大竹美喜</p>	<p>広島県庄原市生まれ。韓国大邱韓医大学名誉保健学博士授位。 1974年11月アフラック(アメリカンファミリー生命保険会社)を日本に創業。副社長、社長、会長を経て、2003年創業者・最高顧問に就任し現在に至る。日本で初めて「がん保険」でスタートした同社を、国内最大級の外資系生保に成長させた。 本業のかたわら、教育面では多数の大学で理事等を務め若者の人材育成に注力。 国民の豊かな生活に向けてさまざまな提言を行うとともに、ニュービジネスの育成にも尽力している。</p>
<p>塾長 よしざわ たけし 吉澤 健</p>	<p>滋賀県大津市生まれ。1962年滋賀県立膳所高校卒業。1966年東京大学法学部を卒業し、同年4月旧自治省入省。1977年自治省 官房文書広報課課長補佐、1984年大阪府財政課長。その後教育次長、総務部長、副知事、2001年四国大学経営情報学部教授。2009年より同大学講師。</p>
<p>塾長補佐 まえだよしあき 前田嘉昭</p>	<p>大阪市生まれ。東京教育大学卒業。大阪府高等学校教諭、大阪府立阿倍野高校校長を務め退職。 大阪教育大学等非常勤講師・ (公財)大阪府レクリエーション協会理事・生涯スポーツ社会づくりの推進を目標にボランティア活動をしている。</p>

大竹美喜 名誉塾長 (夢の実現にむけて～Never give in～)

本日私が講義の中で申し上げたかったのは、グローバル化時代に生きていくには、韓国人からも尊敬される、ベトナムの方からも尊敬される、アメリカからも尊敬される人物になってほしいわけで、人格者になってほしいということです。それがグローバル化時代のリーダーといえるのです。世界は多様な文化があり、歴史、民族、宗教が全部違います。しかし、みなさん尊敬できる人々であり、私達にとってかけがえのない存在であると超越していかなければなりません。壁をつくるのではなく、乗り越えていかなければいけないのです。



前田嘉昭 講師・塾長補佐 (塾生心得)

初めて出会う高校生達が、新大阪で集合してバスに乗って、色々なプログラムがある中で気持ちがだんだんごんごんしてくる、仲良くなってくる、元気になってくる、協力してくる過程を、今年もまた見せていただいて、楽しく思っております。特に、事務局の準備が年々良くなってきていることを実感しています。高校生達が、気持ちよく楽しく参加できるよう配慮されていて、資料も含めて丁寧な形で作られています。

OB会も発展してきていますので、卒塾したら、きらめき未来塾のためにも頑張ってくれる人材となるよう、期待しております。



<p>おだよしゆき 織田善行</p>	<p>広島県尾道市生まれ。広島大学附属福山高校卒業、東京大学文学部社会学部卒業。 明治安田生命入社後、AFLAC に転職。取締役人事部長、常務取締役を歴任。AFLAC 勇退後は、TPI ジャパン社長を経て、現在、アドベンチャーコーチング(株)社長。</p>
<p>たなかひでなり 田中英成</p>	<p>1987 年愛知県医科大学医学部卒業後、愛知医科大学眼科科学教室勤務。1989 年有楽河合ビル眼科院長、株式会社メニコン取締役、2000 年に株式会社メニコン代表取締役社長、2010 年に同社取締役執行役社長就任。この間、日本コンタクトレンズ協会会長、シンガポール共和国在名古屋名誉総領事を務める。</p>
<p>たかすぎえいち 高杉英一</p>	<p>岡山県生まれ。素粒子論専門。大阪大学理学部物理学科、東京大学を経て、メリーランド大学で博士号を取得。オハイオ州立大学、テキサス大学、オレゴン大学での研究員、大阪大学助手、講師、助教授を経て 1989 年に教授。その後、大学教育実践センター長、2011 年に退職するまで、大阪大学の理事・副学長と務める。 現在は、大阪大学招聘教授・名誉教授、京都産業大学益川塾指導教授。</p>
<p>シェイ デビット SHEA DAVID</p>	<p>エモリ大学(米国ジョージア州)卒業後、コーネル大学にて FALCON 日本集中プログラムを終了、ジョージア州立大学教育学部で語学教育を勉強し教育博士号を取得。1979 年に初来日。1986 年に文部省の仕事で来日し、1993 年には慶應義塾大学の Visiting Lecturer として来日。2000 年に慶應大学で常勤講師となる。現在は、商学部 准教授として教鞭を取る。</p>
<p>たつの いさむ 辰野 勇</p>	<p>大阪生まれ。少年時代、ハインリッヒ・ハーの「白い蜘蛛」に感銘を受けて以来、山一筋の清酒を過ごし、同時に登山に関連したビジネスを興す夢を抱く。1969 年にアイガー北壁に当時の世界最年少で登頂に成功し、名実ともに日本のトップクライマーとなる。1970 年には、日本で初めてのクライミングスクールを開校、28 歳の誕生日に登山用品メーカー、株式会社モンベル設立。</p>
<p>もりやまあきひろ 森山明宏</p>	<p>医学博士(大阪大学)、日本産婦人科学会認定医(母体保護法指定医)及び、麻酔標榜医という2つの資格を持つ。 現在、大阪市内で最年少部長として大阪府済生会中津病院に勤務。年間分娩数 600 件、ガン手術等 300 件をこなしている。</p>
<p>くろいわゆうじ 黒岩祐治</p>	<p>神戸市出身。現神奈川県知事。元フジテレビキャスター、元国際医療福祉大学大学院教授、元早稲田大学大学院講師。1980 年早稲田大学政経学部卒業後、フジテレビジョン入社。報道記者、番組ディレクターを経て「FNN スーパータイム」「(新)報道 2001」のキャスターを 21 年半務め、2009 年 9 月末退社。2 年間のワシントン駐在も経験。 自ら企画・取材・編集まで手がけた救急医療キャンペーンが救急救命士誕生に結びつき、放送文化基金賞、民間放送連盟賞を受賞。ミュージカル「葉っぱのフレディ」のプロデューサーも務める。</p>
<p>すずき かん 鈴木 寛</p>	<p>灘校、東京大学法学部卒業後、通産省に入省。その後、中央大学講師、慶應義塾大学SFC助教授を経て、2001 年に東京都小選挙区より参議院議員当選、2009 年から 2 年間、文部科学副大臣をつとめる。現在、2020 東京オリンピック・パラリンピック招聘議員連盟事務局長、東京大学非常勤講師なども務める。</p>
<p>しもがま まき 下垣真希</p>	<p>島根県浜田市生まれ。愛知県立芸術大学卒業後、国際ロータリー財団奨学生としてドイツに留学。ドイツ国家音楽教授資格を取得し、ケルン国立音楽大学を卒業。冷戦時代からベルリンの壁崩壊までの歴史的な大転換期にドイツ国際ラジオ局でDJを務める。 帰国後、国内外のオーケストラと競演する他、ひとりオペラ「女はすてき」を全国で公演。2000 年、アジア代表としてドイツ・ハノーヴァー万博閉会式で独唱。近年は、日本の美しさや命と平和の尊さを伝えるメッセージ性の高いコンサートや、生演奏を取り入れた講演活動を全国で展開。コンサート活動のかたわら、名城大学大学院で多文化共生論、ドイツ語の教鞭をとる。</p>
<p>みきふみお 三木文夫</p>	<p>京都大学経済学部卒業後、伊藤忠商事入社。1991 年に、同社の社内ベンチャービジネス助成制度第一号として独立し、シーアイミット(株)を創業。2000 年に、社名を、(株)アイ・エフ・ビーに変更、伊藤忠商事の持株を全部取得する。関連会社に、(有)レオン・インターナショナル、漫画家学会。</p>
<p>みずの やいち 水野彌一</p>	<p>戦闘機のパイロットをめざし、防衛大学に入学。アメリカンフットボール部に入部するが、腰を痛めて志を断念。一年浪人の後、京都大学工学部に入学。同校のアメリカンフットボール部に在籍。卒業後は、トヨタ自動車工業(株)へ入社。その後、コロラド・スクール・オブ・マインズ大学院入学、(株)鈴木インターナショナル入社。1965 年から京都大学アメリカンフットボール部コーチ就任、1980 年から監督に就任。 2012 年より、大阪・追手門学院のスポーツコースアドバイザー、同学院客員特別教授に就任。</p>
<p>きのあやこ 佐野綾子</p>	<p>2012 年にビジネススクール INSEAD にて MBA (経営学修士) を取得。世界 80 カ国以上から学生が集まるキャンパスにて、最先端のグローバルリーダー育成プログラムを自ら経験する。卒業後は、International COYA の代表として、インターネットを活用したグローバル人材育成プログラムの高等学校での普及に努めている。 2013 年内閣官房地域活性化伝道師に選出。</p>

織田善行 講師（アフターメーションで未来を切り拓く）

夢を希望という目標にまで昇華させて、それをアフターメーションとして自分自身でつくって、それを実現するよう努力しています。今まで社会からお世話になってきた。それを社会に戻していきたいということが、今の私の希望です。そのために社会人の教育をはじめ、大学生、そして高校生にも自分の思いをメッセージとして伝えるという、仕事をしています。夢から希望に入り、希望から目標に絞り込んでいく。この方法を皆さんが心得て、もっと多くの人たちが自分のやりたいことを実現していく。そのプロセスを楽しんでいただけるといいと思っています。



田中英成 講師（国内産業を支えるものづくりとは）

企業ブランド力を作り上げるには、広告宣伝を上手くやっていって知名度を上げていくこと。同時に社会に対してちゃんとしたメッセージを発信していくということが重要。最高品質の最高精度のものを、そして最高のサービスを提供していくということ、メニコンがメーカーであり、直営の販売店を持っていることなどがブランドにつながっていく。それから、会社を好きになってもらうにはどうしたらいいのかということ。恋愛と同じで、相手のことを一生懸命に考える、消費者のことをもっとも考えるということが大切。



高杉英一 講師（宇宙の成り立ち）

宇宙をちゃんと本当に理解しようと思ったら、ややこしい数学を勉強しなければならないですね。いわゆる一般相対論とか。でもそれだけではだめで、色々な泥臭い仕事もしなければなりません。宇宙ではいろいろなことが起こりますから。本当にそれをやろうと思ったら、専門家になるより他は難しいと思います。ですから普通の人だったら、おおよその全体像を、今はどういう実験があって今の宇宙はどういう感じなのかということだったら感覚的に理解が出来ると思います。細かいことではなく、どういう実験があって、その実験からどうゆう結論が出ているのかということを見ていけばわかりやすいと思います。



SHEA DAVID 講師（Stories to improve your English）

英語を自分のものにするためには、ストーリーについて大きな視点を理解することを学ぶために大切な語彙や文法などの in put と、speaking や writing などの out put がとても大切です。

私にとってアメリカ人に日本語で話すことが簡単ではないように、多くの日本の高校生にとっては英語を話す事、特に日本人同士で英語で話すのは簡単ではないと思います。でも、英語の授業の中でなら出来ますね。「out put」は、今日の授業でやったように、2ステップの方法でやるのが大切です。まず書いてそれからその事について話す。すでに書いたことについてなら話しやすいですからね。



辰野 勇 講師 (夢と冒険)

夢、ようするにやりたいことがあれば、それを思い続けること。思い続けてそれに一步でも近づいていくようなチャンス、幸運の女神を掴んでください。幸運の女神を前から掴むためには、決して漫然と生きずに、常に自分の夢や思いを忘れずに持ち続けることが大事です。夢なんて本当に大切なものなんだろうかと思うこともあります。夢なんてなくても生きていける。夢がなくなつて、ご飯を食べて、運動して、仕事をしたら、それで生きていける。だから、夢なんて、それがなくても生きていけないものではないから、もし持っているとしたら、思い続けなければ忘れてしまう。いつか気がついたら、こんなこと考えてたなっていうことで終わってしまう。



森山明宏 講師 (ひとつの生命ができるまで)

「人はすごい確率で産まれてきた」、今日はそのテーマでお話をしましたが、まだまだ色々な意味において謎は多い。例えば、排卵された卵をどのくらいの確立で卵管の先にある卵管采がキャッチするのか。命ができるということ自体が神秘的な訳で、最初から女性と男性がいたのか、人間のもととは一体何なのか、動物の話も含めてなんですけど、そう感じますね。



黒岩祐治 講師 (夢を実現するチカラとは?)

毎年未来塾で講師をしています。今年の皆さんの質問のレベルの高さには、非常に感銘を受けました。それとともに、質問にはたくさんの方が手を挙げていました。それだけ何か自分で勝ち取ろう、もぎ取ろうという意欲あふれる人が集まっていて、これまで積み重ねてきたことが、大きな力になっているのかなと思いました。こうした環境の中で、お互い刺激されるんじゃないでしょうか。だから、この数日間の経験というのは非常に大きいのではないかなと、見ていてそう思いました。



鈴木 寛 講師 (卒近代ソーシャル・イノベーション)

私はやはり色々な人と出会って、その人たちと友達になって、一緒に色々な苦勞を乗り越え、1人ではできない何かを仲間と、あるいは同士と一緒に実現できる、実現をしようと努力する。やはり人間は1人じゃないんだと、これだけ一緒に夢を、一緒に何か実現に向けて頑張れる仲間がいる、同士がいるということを実感できるということが一番幸せかなと思います。例えばインターネットを使えば空間を超えてコミュニケーションできますが、こうやって淡路に集まって人と交わり五感、第六感も含めフル活用して交わすコミュニケーションというのは本当に大事だと思います。そしてとにかく友達をつくってほしいなと思います。頑張ってください。



下垣真希 講師（日本とヨーロッパの比較文化）

彼らを見ていて、日本の未来は明るいなと思いました。志の話をしました十分芽が出ている子達だなと感じました。とにかく一生懸命にやることです。一生懸命にやっこそわかることがある。一生懸命さ、ひたむきさを忘れないで欲しい。人間は生きていく限り時間が与えられるので、その日その日を一生懸命生きることによってある日夢がポンと見えたり、振り向いたら、自分の歩いてきた道はそこに繋がっているんだと気付いたりすることがあると思います。人それぞれの時間があると思うので、焦らず、まずは真剣に生きることが大切です。



三木文夫 講師（中国の諸事情）

現在の中国について共産主義の政権だと思っている人はいません。共産主義帝国という考え方でしょか。共産主義思想のかけらもない。たとえば、マルクスやレーニンが語ったのは少数民族の独立です。共産主義者は人民に奉仕しますが、誰もしていません。中国国内でも不満が高まっていて、遠くない将来には立ち行かなくなっていくと思います。



水野彌一 講師（心は創るもの）

「最後にはなるようになる」誤解のある言葉ですが、自分の意思ではどうにもならないこともあるということですよね。なるようになるから何もしないんじゃないくて、トコトンやるけど結果としてはなるようにしかならない。言葉を変えると「楽観主義」ですね。こうなるだろう、ああなるだろうという「楽観論」はだめです。俺がやるんだ、するんだ、だけど俺がやってもできないこともあるだろう、挫折もするだろう。でも、もう一回やるんだということです。人間は、その時に自分に負けない自信があればそれができる。



佐野綾子講師（グローバル人材：国際社会で活躍するという事）

今回お話をさせていただいた、3つの視点

「1. シナモンロール 2. 極上のウッシーくん 3. 自分の心に名前をつける」を是非覚えて下さい。これからも自分自身と外の世界に目を向け、将来、国内外で堂々と自分の意見を発言できる人になってくださることを期待しています。



7. カリキュラム活動報告

(1) 講義

医療・スポーツ・芸術・メディア等、いろいろな分野から講師を招き、専門知識・体験談などを通して、あきらめずに夢を持ち続け実現につなげていくことが簡単ではないこと、人とのつながりを大切にすること等を話していただいた。講義内容は、高校生にもわかりやすく咀嚼した内容であったので、塾生全員が熱心に聴講しメモをとっていた。

講義終了後の質問時間には多くの塾生が質問をしていたが時間を延長しても応じきれなかったので、質問票を提出してもらい後日講師から回答をいただくことにすることにした。

講義後、受講内容を深く理解するため設定しているとディスカッションの時間も熱心に討議している様子が伺えた。また、今回は入塾前にディスカッションテーマや参考図書、予習のポイントを案内しており、事前学習も促した成果もあったかもしれない。

毎年、講義の中には専門的すぎて理解するのが難しいものがあったり、塾生全員が興味を持つことのできる内容のものでなかったりもするだろう。しかし、どの講義からも何かを感じ自分の夢に真剣に向き合うための大きな一歩を踏み出せるきっかけ作りへの刺激となったのではないだろうか。



1日目 (8月19日)

名誉塾長講話「夢の実現に向けて～Never Give in～」

大竹 美喜 名誉塾長

アフラック (アメリカンファミリー生命保険会社)

創業者・最高顧問

【内容】グローバル化の時代を迎え、今企業が求める人材は異能・異才な人物。つまり、異なった能力と才能をもった人である。なぜならば、答えのない時代、課題解決能力が求められる。それにはどんな国で、どんな仕事でもできるマルチタイプの人間になれるということ

【塾生の感想】

『参加前に、大竹講師の本が配られていたので、人生論やすぐに信頼されるコミュニケーション能力の高さに何度も驚かされました。その人の話が聞けるということで、信頼されるような話し方がどんなものなのかという所も注意して聞きました。本に書かれていたように難しい話も難しい言葉を遣わなかったり、本当に分かりやすく、内容以外の面でも勉強になる部分がありました。』

『僕が印象に残った事は守った方が良い5つの決まりです、志を持ったら向かうべきことが見えてきて、思いやりの心を持つと皆と共有することができると思います。

歴史や文化を知ることによって周り協調する方法を学び、心にある程度のゆとりを持つことにより、対人関係に余裕を持つことが出来ると思います。僕は実行していきたいと思いました。』

講義1「アフメーションで未来を切り拓く」

織田 善行 講師

アドベンチャーコーチング株式会社 社長

【内容】 将来成功するためには、目標を持つだけでなく、その目標を書き留め、実現するための計画を持っていることが重要。最終日に塾生が自分のアフメーションを発表するための講義。

アフメーション… 自分のやりたいことを以下の形式で言葉にすること。第一人称・現在形で書き、あたかも達成したかのように表現する。

【塾生の感想】

『特に印象に残ったのは「夢は持っているが、そこに希望と目標が伴っていないといけない」というお話です。夢は受身なものであり、希望はそれに自分の行動が加わったものだと思っていたのに対し、とても納得しました。アフメーションの話聞いた時は、実際に経験があったのではとしました。リアルに想像して、自分がその目標を達成したと思えば夢（希望）も叶う、これからも生かしていきたいです。』

『自分は夢を持っている、希望を持っていると思っていたので、夢と希望、そして目標の境界線を学べて嬉しかったです。自己を見つめる良い機会になりました。自分の悪い所、改善すべき所を考えられました。自分達の知っている言葉（TV、有名人）を使って説明して頂いたので分かりやすかったです。』

2日目（8月20日）

講義2「国内産業を支えるものづくりとは」

田中 英成 講師

株式会社メニコン 代表執行役社長

【内容】 医療器メーカーに相応しい安全な製品・サービスの提供、使用方法の啓発、使用方法の啓発、さらには社会貢献活動、文化支援活動等により、企業としての存在価値を高め、社会的共感の獲得を期すメニコンのブランド戦力について。

【塾生の感想】

『ブランドがなぜ産まれるか等を学びました。また、健康や精神があって知識、想像力があり、一番大切なのは想像力だということも学ぶことができました。』

『すべてを想定して行動をおこさなくてはならないというお話が印象に残りました。そして幅広い知識と想像力を養い、創造力を身につけたいと思いました。』

『田中講師の「時代に先駆けて、より高い基準をみずから設定し、それを超えるべく挑戦し続けることによって初めて実現される安全」という言葉に高い志を感じました。この目標を自分に掲げたら、私も今までの甘えた消極的な性格を変えられるかもしれないと思いました。』



講義3「宇宙の成り立ち」

高杉 英一 講師

京都産業大学益川塾指導教授、大阪大学名誉教授

【内容】 1. 光の「速さ」と過去 2. 宇宙は膨張している 3. 宇宙の温度を測る
4. 物質があると空間がひずむ…アインシュタイン 5. 光で見るよりさらに過去を見る方法を解説し、「われわれの宇宙の年齢は有限か」「われわれの宇宙の組織は」「運がいいとは」について考える。

【塾生の感想】

『地球は超新星の爆発から生まれたものだと言われ、勉強になったと思いました。』

『宇宙の壮大さをあらためて教わりました。そして運というものをもう一度考えさせてもらい、チャンスの掴み方なども皆で話合えてよかったです。』

『宇宙の話はとても印象に残っています。宇宙というものはまだまだ未知の世界であることがよくわかりました。チーム内のディスカッションでもなかなか結論がでなかったもので色々話あったりして楽しかったです。』



講義4「Stories To Improve Your English」

SHEA DAVID 講師

慶應義塾大学商学部 准教授

【内容】 日本人には「英語が苦手」という人がとても多い。しかし、恥ずかしさを乗り越え、積極的に英語を話すことが大切。

語彙や、文法などの「in put」だけでなく自分の英語を上達させて自分のものにするためには「out put」が大切。「out put」は、speaking と writing、英語を「Speak out」するため「自分のストーリー」を作って話してみよう。映像を使いながら講師のユーモア溢れるエピソードを紹介し、英語を学ぶには「Out out」することの大切さを教える。

【塾生の感想】

『もともと英語が好きでこの講義をととても楽しみにしてきたところもあったので、少し分からない内容の時もあったけど、必死でついていけるように頑張りました。印象に残っていることは”made it your own”という言葉でこの言葉のように英単語1つに対しても自分で吸収していける人になりたいです。』

『今日、とりわけ印象に残った講義はシエイ・デビッド先生のものでした。ユーモアあふれるわかりやすい解説で、50分間とディスカッションの間も楽しく取り組むことができました。それだけではなく、英語を改善していくための方法やモラルもノートに書きとめながら、これから英語を楽しんで勉強していく上で、役に立つ情報も得ることができました。講義の最後に Suggestion という形で先生からのアドバイスがありましたが、その中でとにかく読書しようということを強調されていました。1日1分間だけでも推薦の本を読もうと強く思いました。』



講義5 「夢と冒険」

辰野 勇 講師

株式会社モンベル 代表取締役会長

【内容】「人が一つ物事を成就しようと思えば“集中力”“持続力”“判断力”が求められる。さらにリーダーには既成概念にとらわれず、思い切った一步を踏み入れる勇気を持った“決断力”が必要である。」ハインリッヒ・ハラーのアイガー北壁登攀記「白い蜘蛛」に感銘を受け、以来山一筋の青春を過ごし、同時に将来登山に関連したビジネスを興す夢を抱いた講師。さまざまな問題を乗り越えながら目標に向かって進み、少年時代からの夢を実現した体験談を通じて伝える。

【塾生の感想】

『母と弟が登山好きなこともあり、テーマが身近に感じられた。辰野講師の決断力、行動力はすごいと思う。自分の好きなこと、興味のあることを、とことん追求して苦勞も感じないほど夢中になれることはうらやましい。まだ私はそこまで夢中になれることは見つかっていないけれど、まだまだ人生は長いのでいつか見つかる信じて、今は目の前の事に精一杯取り組んで、高校生活を楽しもうと思う。特に印象に残った言葉は「1800mの山は1mが1800回続いているだけ」。私はすぐに遠い所の目標ばかり目がいってしまい「私には無理だ」と思ってしまっているので、この言葉はすごく衝撃的のためになった。』

『集中力、持続力、判断力、そして決断力、それに必要な創造力、求めるものを明確にすることか夢を掴む重要なものと、頭にしっかり刻みこみました。Do What you like. Like What you do!』
やらされてるなんで絶対に思わないでいたいです。』



2日目 (8月20日)

講義6 「ひとつの命ができるまで」

森山 明宏 講師

大阪府済生会中津病院 産婦人科部長、医学博士、日本産婦人科学会認定医、麻酔科標榜医

【内容】人が誕生するときの卵子と精子のメカニズムを、兵庫県・西宮神社の福男選びにちなんで、解説する。生命が誕生する確率やそれまでの課程、女性の体の仕組みの解説を通じて生命の神秘さ、大切さを伝える。

【塾生の感想】

『将来看護師を目指しているので、森山講師の話にとっても聞き入りました。産婦人科だと、普通の内科外科の医者より寿命が短くなるということを知り、少し怖くなりました。しかし、森山講師が詳しくお産や受精のこと、女性の体について教えて下さったので、もっと看護師になりたいという気持ちが高まりました。』

『私達がこの世の存在することの奇跡を改めて感じさせてもらいました。そして長年の疑問がひとつ解決しました。それは「精子は2000万分の1と強い淘汰圧がかかっているのに対し、卵子は1つで動かずに精子を待ち構えているだけで淘汰圧がかからないのか」です。その答えは「卵子にも同じ位の淘汰圧がかかっている」でした。自然界の仕組みはそう甘くないものだなと感じました。』

講義7「夢を実現するチカラとは？」

黒岩 祐治 講師

神奈川県知事

【内容】自身の挫折した経験から、失敗したマイナスと思える経験こそ、プラスになっていく大きな力であること。またジャーナリスト時代の救急救命士の制度改革の話などの経験から、夢を叶えるために使命感や行動力を持つことの大切さを伝える。



【塾生の感想】

『黒岩講師の先生である橋本先生の教育の仕方を聞いて感動しました。感動というよりは憧れに近いものかもしれませんが、自分が考えたこともないような、というよりは普通では考えられないような方向での教育であったので、その自由感が羨ましく思えました。』

教師になれたときに持っていたい、自分の教育理念や教育方針を改めて考えられる機会となりました。自分の教育で何を伝えられるのか、何を思ってくれるのか、また将来のためになるかは、今は分からないけど、僕の背中を見て、僕にあこがれを抱いてくれるような教師、もしくは大人になりたいです。』

『「知らない」ということは武器だという言葉がとても印象に残りました。やはり「知らない」ということは恥ずかしいことだという認識でしたが、それを言わずに知ったかぶりをする方がよっぽど恥だと思いました。恥ずかしいと思うことを武器にできることがすごいと思いました。』

講義8「卒近代のソーシャル・イノベーション」

鈴木 寛 講師

前参議院議員

【内容】日本の次なる成長のためには、卒近代すること。世界の人口動向、国際競争力が大きく変化する中で、日本は新たな方向性を見出す必要がある。足元を見てみると、日本は最もクリエイティブな国である。自然科学系のノーベル賞受賞者は世界第7位。過去10年間では世界第2位と日本が世界から評価されていることは多い。強みを生かした戦略をとることで、復活の道がある。



【塾生の感想】

『イノベーションの講義で、日本は海外から、見たらすごくクリエイティブと認められているのに、日本人自身は最下位とされていて、国の雰囲気もあるなって思いました。』

『イノベーションのお話が印象に残っています。日本人は、日本の事を他国より劣って見てしまうことがよくありますが、客観視をして、良い所も知って、新しいものを作っていこうということが重要と思っています。』

『自分達の知らない日本の良さなどを教えていただき、自分達の弱みと強みにきづくことができました。』

講義9「日本とヨーロッパの比較文化論」

下垣 真希 講師

ソプラノ歌手、名城大学大学院多文化共生論講師、名城大学ドイツ語講師

【内容】

講師が留学していたドイツの街づくりや森づくりそして人作りを学びながら、挨拶や声をだしコミュニケーションをとることは重要であること。多くの国が国境を接して存在するヨーロッパ諸国の置かれている環境・歴史。平和に暮らしている日本の私達。世界を知り視野を広げる、人のために生きることの尊さ、命を輝かせて生きることについて考える。

【塾生の感想】

『「日本・自分を知ること、私はどう思うか、情報のやりとりはコミュニケーションではない。人は皆ちがうのはあたりまえ。日本は一本化してしまう。平和をバトンタッチしたい。太平洋戦争と今の時代が同じ流れ。生きさせていただいていることに感謝。など、全ての一つ一つの言葉に感動をしました。自分にできることで、精一杯生きることを学びました。歌、本当に感動しました。自分の人生を変えられたと思いました。』

『文化と言語、その土地に住む人々の気風は深く関わっている気がする。そして、自分の目で確かめてみたいという気持ちも強くなった、「歌は歌わせていただいているもの」という下垣さんの言葉にもあったように、歌からもすべてのものに感謝する気持ちが強く感じられた、命を輝かせて生きるには、様々な経験をして、広い世界に心を開いてずっと成長し続けることが大切だと思う。』



講義10「中国の諸事情」

三木 文夫 講師

株式会社アイ・エフ・ビー 代表取締役会長

【内容】「尖閣諸島問題」「中国環境問題」「中国偽物商品問題」を中心に、商社マンとして海外でビジネスをしてきた経験の中で、日本の常識が世界では通用しないと言うことを重点に置くと同時に、中国とはなんぞやと言うことをベースに、日中の友好をどうして構築していくのかを問いかける。

【塾生の感想】

『中国の諸問題についてのお話もとてもびっくりすることが多くお聞きできてよかったです。今回かなり予習していましたが、講義中、もっと日中の歴史を知っておかないといけないと痛感しました。』

『中国との歴史の大まかなながれや、中国の人々の精神などを聞いていたら、決して中国人が悪いのではなく、中国の政府が悪いんだなと思いました。中国では小さい頃からの反日教育やインターネットの情報規制が行われていますが、それが間違いだということを中国人に教えてあげたいと思いました。日本人から、しかも人を信用しづらくなってしまった中国の人々にはなかなか信じてもらえないでしょうが、信じてもらえるまで言い続けて、中国の人の考えが少しでも変わってくれたらなと思いました。』

『国際問題を理解し、解決に導くためには、その国の政治体制や国民の常識などを現地において自分の目で見て知ることが第一歩だと思いました。』

講義 11 「心は創るもの」

水野 彌一 講師

認定 NPO きらめき未来塾副理事長、京都大学アメリカンフットボール 前監督

【内容】自分の負けは自分が決める。何かをやるなら、やるかやらんかは自分が決める。それに責任を持つ。嫌ならやめろ、やると決めたらやりぬく。嫌でも辛くてもやる。

自分の人生は自分が作る。自分の気持ちにこだわってたらあかん。自分が努力して色々な人生を築いていけば、心はついてくる。心はあるものじゃない、自分で創るものだ。

【塾生の感想】

『「大人になるとは自分の意志で何かを決断することだ」というお話がありました。今まで「大人になれる」ように取り組んできたかと尋ねられると全然思い出せません。僕は自分の意志と自信をしっかり持ち、失敗をしてもいいじゃないかと思えるカッコいい大人になりたいです。』

『水野講師のお話はすごく心に残っていて人生そのもの本質を学んだように思いました。人生経験の少ない僕にとってはとても貴重な話を聞けて、これからの人生を見直していこうと思えました。』

『講義後のディスカッションでは、「どんな人生をおくるか」について皆と話しました。皆がどういう理由できらめき未来塾に参加したのかわかり、すごいなと思えました。』



8月20日 夜の時間

「グローバル人材：国際社会で活躍するということ」

佐野綾子 講師

【内容】グローバル人材とは、「世界」を知ること、「自分の世界」を広げ、その二つの架け橋となって、それぞれ単体では生まれなかった、新しい価値を社会に創造できる人である。

将来、世界を舞台に活躍できるグローバル人材になるために、学生に日頃から大切にしてほしい3つの視点は「見えていない世界・可能性があることを知ること」「学んで見えている世界を広げること」

「自分の思いや考えを知り、大切にすること」。それらを持てば、自分の進むべき道も自然に見え、どの分野に進んでも、世界を舞台に活躍することができる。



【塾生の感想】

『日本人は周りに気を使えるけど消極的っていうのが自分にもあてはまると思うし、グローバルな世の中で活躍していくために積極的にになりたいと思った。まず明日の質疑応答やディスカッションで積極的に質問や発言をしようと思う』

『佐野さんから学んだのは「見えてない世界がある」ということと「スポットライトの光を広げる」とことと「自分の心にスポットライトを当てる」ということです。どれも奥が深くためになりました。』

(2) チームミーティング

課題1. 「チーム名」「自分のキャッチコピー」

初日の最初のチームミーティングで行った。最初のチームミーティングは、毎年、自己紹介、チームリーダー選出、チーム名と目標を決めるという流れである。

自己紹介は、いつも担当サポーターに、各チーム工夫して行うようにのみ言って任せているのだが、今年は、塾参加前の予習を促すため、事前課題の1つとして「自分のキャッチフレーズ」を考えてくるように指示をした。

事前課題を出すのが初めてで、短い文で自分の魅力を伝えるという実は難しい課題で少々不安だったが、皆工夫しユニークなものを考えてきていた。結構な盛り上がりだったため、急遽、チームで「Best of キャッチコピー」を1人選び、次の日のチーム名と目標発表と共に、発表してもらうことにした。

チーム名は毎年恒例の課題で、最初に指定してあるA～Gのアルファベットを組み込んでチーム名を考えてもらう。初ミーティングであるが、チーム名を決めるため色々なアイデアを出し合っていて、1日で一番印象に残ったことに「チームで話し合ったこと」を挙げる塾生が多かった。

塾生の感想

「チームミーティングは、和やかな雰囲気でもとてもすごしやすかったです。自己紹介でキャッチコピーを言う時に、皆それぞれ笑い所とかを作って上手に話していたので、いい盛り上がり方でした。私も堂々と発表できるようになりたいです。」

「チームミーティングでは発言するのが難しかったです。緊張していたので、明日からはもっと積極的にしていきます。でも少しでしたが意見を交換するのが楽しかった。」

課題2. 「音楽レクリエーション レインストーム」

毎年恒例の、音楽レクリエーション。五線の楽譜ではなく記号や絵で楽譜を作り、ボディパーカッションや身近な音素材を利用してストーリー性のある作品づくりをグループごとに行った。

探しから楽譜づくりまでを、まだ2日目でチームに馴染んでいない生徒もいる中、一時間でを行うのは大変難しいことだが、チームで協力し、担当サポーターが



フォローしながら、全チームが完成させることができました。どのチームも工夫を凝らしていたが、「ハンバーグ」や「スーパーマリオ」など、具体的なテーマが多かったように感じた。

最後に、サポーターや事務局で投票し、演奏賞、楽譜賞を決めるのだが、演奏賞で1位になった「森林伐採」をテーマにしたチームは他の生徒からの反響も大きく、こんな表現の仕方やアイデアがあるのかと刺激になっていた。

塾生からは「難しかったけどやってみたら楽しかった」「皆で合わせて何か作り上げるのが楽しかった。」「もっと時間があればよりよいものができたはず」等、この題材に興味を持って取り組んでくれたことがわかった。発言が多く、より沢山のアイデアをだせたチームが、完成度の高い演奏ができていたが、そうではないチームも「皆で協力して、考えたので良かった」と感想があり、この時間をきっかけにチーム意識が高くなったように感じる。

塾生の感想

「音楽レクリエーションでは、今までにやったこともないような音楽の表現の仕方で、皆が1つになって曲をつくっていくことによって、さらに仲良くなれたと思います。既にある楽器を使うのではなく、身の周りのものからちょうどいい音になる物を探して、タイミングやストーリーをみんなで考えていくことが楽しかったです。」

「初めての体験だったので、少し悔いが残る結果になりました。今ならもっと工夫してできたのと思っています。D班の森林伐採をテーマにした発表はとても分かりやすい上に、沢山工夫もされていたので、とても良かったです！瞬時におもしろいものを考えられる皆はすごいなと思いました。」

「私達にとって、とても良い思い出になりました。テーマは、想像力豊かな皆の発言から『森林伐採』という斬新なアイデアにまとまりました。音はそれぞれ意見を出し合っ、自らも色々と意見をだせし、独特な音を切磋琢磨して生み出したので、結果演奏賞1位を獲得することができました。」



課題3. 「チームCMをつくろう！」

音楽の課題をだしているのもう一つは美術系の課題ということで、昨年まではステンシルを用いての「チーム旗の制作」を行っていた。今年は課題を変えようと考え「映像」に着目した。

現代美術の展示にいくと、映像作品はすでにアートの一分野になり、様々な表現がなされている。ビデオカメラやパソコンを使って、簡単にとはいかないだろうが、誰でも映像を作ることができる。今後の美術教育でも取り入れられていくのではないだろうか。また、スマートフォンで動画を撮るYou Tubeを見るなど、現代の高校生にとって「映像」はとても身近なものである。そこで思いついた案が「チームで自分達を表現する映像を作って、卒業式に上映してはどうか」である。

実施するにあたって、塾中に撮った映像を卒業式で見ることは可能なのか、PCの数や制作時間の問題で編集はできない中どのようなものが撮れるのか、制作と撮影に要する時間はどれくらい必要か、そして、アイデア力と企画力が求められるため、高校生達にできるのだろうか、などの問題が挙げられた。

検討していく中で、撮影した映像を卒業式で上映することは問題ない。そして、例年キャンプファイヤーの出し物を熱心に考え練習し即興とは思えないものを発表していることを思えば、CM制作に対して一生懸命に取り組み、限られた時間内で完成することができるのではないか。塾生の反応も心配だったので、同窓会実行委員会で卒業生達に意見を聞いたところ「面白い」という反応が返ってきた。そこで実行に向け計画することにした。

実施概要は以下のとおり

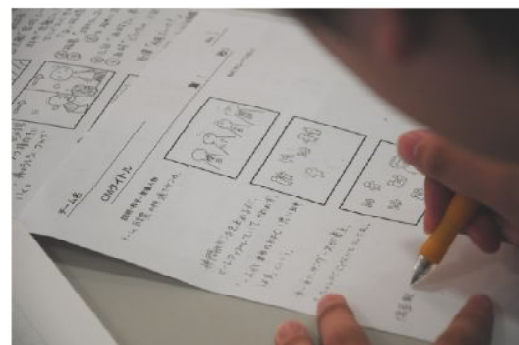
課題：「チームCMを作ろう」

私達のチームは、こんなチームです！こんなメンバーがいます！！目標は〇〇です！

チームの特徴や、メンバーの個性、目標などを表したCMを作ってみましょう！完成したCMは、卒業式で上映します。

目的：チーム全員でまとめ、「映像」という媒体を使って、個性を表現できるように考える力、実行する力をつけること。

- 概要：① 1チームの持ち時間は30秒～60秒です。
② CMは15秒単位で制作してください。
③ 60秒間は、どのように割り振りしてもOKです。
例) 15秒+15秒+30秒、30秒+30秒、60秒
④ 企画書とコンテを作成しましょう。



- 役割：① 監督 … カメラカットの確認や、撮影全体の演出を行います。出演者の立ち位置や、動き方、台詞などの指示をします。OK、NGを判断するのも監督の役目です。
② カメラマン … 撮影する人です。録画のスタートと終了を知らせる合図を出します。
※カメラマンのみ、チームのサポーターにお願いしてもOKです。
③ 出演者 … CMに出演する人のことです。

その他：CMは15秒という短く限られた時間の中での表現力が問われます。何を伝えたいのかをチームではっきりさせて、取り組むことが大事です。たくさん言いたいことがあっても、何を表現しているか分からなくなるので、要注意です。

実施スケジュールは、3日目の朝に導入と説明、午後のチームミーティングで企画書とコンテ作成、出来上がったチームから、夜の時間や次の日の朝も利用して撮影を行い、4日目午後のチームミーティングに最終確認を行う。ビデオカメラは3台用意したので、1回30分間とし希望撮影時間に貸し出しをすることとした。

説明の時間、まず事務局員で撮影したきらめき未来塾事務局CMを流すと、拍手が起こった。「皆さんにやってもらう課題はこれです。CMを作ってもらいます。」という、ザワザワしながらも楽しげな雰囲気になっていた。質問も沢山出て、PC得意な塾生がいるので編集したいという声があったが、不公平になるので禁止にした。それだけの理由でなく、カメラのフレームを使って色々な表現もできる。例えば事務局CMでは、最初レンズ半分を黒紙で覆って最後に剥し種明かしをするというものであるが、そういった工夫をしてほしい。場面を変えたい場合は停止を押す、カメラの特性や機能を生かした撮影をしてほしいと考えた。では始めてくださいという、あちこちで意見が飛び交い始め、どのチームも熱心に真剣に取り組んでいる様子が伺えた。心配は一気に消えこれならいいもので出来上がるだろうと感じた。撮影に使える時間が少なく、とてもハードだったと思うが、夜や朝早く起きて撮影し、Bチームだけ、ディスカッション時に揉め事があったせいで完成できなかったが、提出時間までに除く全チームが撮り終えることができた。



最終、事務局が多少の編集を施し、各チームのサポーターにチェックをしてもらい完成。どのチームも個性的で、工夫を凝らしたとても良いものが出来上がった。卒塾式で上映し、理事・事務局・サポーターで採点し、コンテとアイデアの2部門で賞を選ぶ。本当に甲乙付け難く、塾生達も自分のチームの出来栄に満足するとともに、互いの作品を褒めあっていた。

塾生達の取り組む姿と作品を見て、この課題を取り入れて良かったと思うが、新しい企画を事務局皆で協力し企画できたことも良かったと思う。CMやPC技術などそれぞれが持つ得意な分野を生かすことで、より本格的に詳細に課題設定を行うことができた。またカメラマンの吉川さんにも塾生へアドバイスをお願いもした。

今後、実施する場合は制作時間の十分な確保、PCでの編集など、塾生がより納得できる作品をものを作成できる環境を設定して行いたい。

塾生の感想

「チーム CM 作成では、技術面を担当する人がいたり
どんどんアイデアを出してくれている人がいたり、
そして採用されなくても自分の意見を言ってくれる
ような皆の変化を感じました。他人事ではなくて、
ちゃんと自分も参加しようとする、皆で作りに上げて
いっている感じがしています。」



「チーム CM 作成では、できるだけきばきと進行が
できるように、みんなの意見をまとめつつ、上手に平行できて 1 日で CM を作ることができた。
さらに、自分の中での決断力、人の意見を聴く力がついたと思う。」

「チーム CM 作りは、皆で楽しみながらできたことが印象に残っています。1 から案を出しあった
ものがどんどん形になっていくのが面白かったです。最高の CM を作って 1 位を取りたいです!!」

「CM 作りで編集が禁止されたのは残念だった。折角映像をやるのだから、編集などでクオリティ
を上げたかった。それでも放送部が班に 2 人いるのでやれるだけのことをやりたい。」

「皆それぞれ個性がでるようにたくさんの意見を出しあいました。なかなかまとまらなかった意見
も少しの時間でまとまりました。3 日目のこともあり D チームは本当に仲が深まって段々皆が意見
を言えるようになり、私自身も気軽に意見をだせるように雰囲気良くなっています。撮影の準備
も休憩時間に皆集まって何度も練習したりして楽しく進んでいます。」

課題 4. 4 日間の振り返り・アフターセッション作成

4 日目の昼のチームミーティングでは、最終日の野外学習を残してはいるが、一人ひとり講義やディスカッション、チームミーティングで学んだことを振り返り、それを今後の学習や学校生活にどう生かしていくか、そして織田講師から指導のあった自分の夢を実現するための具体的な目標を宣言するアフターセッションを作成し、「振り返りシート」に記入する時間である。

個々の振り返りシート記入が終わったらチームで発表会を行い、全体発表会の代表者を選抜する。

そして、チームとしてどのように成長したか、目標を達成したかを個人の反省をもとに話し合いをする。



サポーターは事前に織田講師から研修を受けてはいるが、きらめき未来塾初参加のサポーターにとっては、発表会のイメージがしづらいようで、指導に戸惑う様子がみられる。しかし、今年は卒塾式後の OB セッションに参加する卒塾生達が、この時間から参加して塾生にアドバイスしてくれたことでサポーター達にも心強く、スムーズに行えたのではないかと思います。いつもは、ミーティング終了時間が近づいて慌てている様子が伺えるのだが、時間前にきっちり終わらせて、発表に備えてチームのプラカードを画用紙で制作している姿も見られた。

発表会は、1 チームずつ前にでて発表を行う、そして卒塾証書が授与される。今年は、吉澤塾長が急遽、来られなくなってしまったために水野副理事長からの授与となった。大きな声で夢に向かって決意を力強く発表し卒塾証書を受け取るその姿は、とても堂々としていて 4 日間の成長を感じ取ることができた。

(3) レクリエーション

バス内カリキュラム「アイスブレイキング」：前田 嘉昭講師（理事）

レクリエーション担当サポーター：宮地 賢和、神谷 将志、盛一 季美香

音楽担当サポーター：石松 千咲、大畑 和樹

① バス内カリキュラム「アイスブレイキング」

バス内カリキュラムのアイスブレイキングでは、理事でもある前田嘉昭講師とレク担当サポーター3名、音楽サポーター2名が、二台のバスに分かれて、途中サービスエリアで乗り換えをし、レクと音楽と交代で行った。



レクリエーションは、前田講師の導入のあと、ゲームやクイズ、キャンプファイヤーで歌う手話歌の練習などを行った。今回は、毎年参加しているレク担当が1名しか来れないため、学生サポーターに研修をしてレクリエーションを担当してもらおうという形をとった。

少々不安ではあったが、他の学生サポーター達の協力もありスムーズに進行できていた。サポーターの座る席を工夫することで、1人で座る塾生がなくなりバス全体の雰囲気も良くなっていった。

音楽は、「名前でリズムうち」という前の座席から順番にマイクを回し、自分のチーム名と名前（ニックネーム）を4拍子×2の間に入れるリレーゲームと、キャンプファイヤーのための合唱練習を行う。歌は、例年より少し声が小さく感じたが、何度か繰り返すことと周囲のサポーターが声をだしていたおかげで、最後にはある程度の声が出るようになっていた。

今年は、塾生が特に大人しく緊張がほぐれるまでに時間がかかり、担当のサポーター達は体力を要したことと思う。また塾生だけではなく初参加のサポーター達も、最初は緊張して戸惑っている雰囲気が感じられた。担当サポーター達に任せきりな面が多いので、事務局が加わって内容を計画し、全サポーターにも共有してアイスブレイキングを行うようにしていきたいと思う。



② オリエンテーション～コミュニケーションゲーム

同窓会実行委員会でサポーターを決める際、きらめき未来塾のカリキュラムに対して色々、感想や意見を聞いた。そこで、『他のチームとの関わりがあまりなかったので、全体で自己紹介する時間があったらいいと思った。』『仲良くなれるイベントを初日に行った方がいいのではないか。』という意見がでたため、事務局会議でオリエンテーションの実施方法を工夫しようということになり、「自己紹介もかねて、全体で交流できるコミュニケーションゲーム」をしようということになった。

各チームで自己紹介が終わった後、全体で趣味や趣向により共通のグループを作るゲームを行った。進行に戸惑ったり、まだ馴染めてなく緊張のある中ではあったが楽しんでくれたのではないかなと思う。最後に8つのチームに分かれて終了なのだが、このチームを使った活動をもっと取り入れていけば、チームを超えての交流もできたのではないかなと思う。

③ 朝のレクリエーション

朝の体操は、一度寝坊して参加できなかったチームがあったが、ほとんど開始時間に遅れることなく積極的に行う姿が見られた。体を動かすこと、声を出すこと、頭をつかうことにより、その後の食事や講義など一日のリズムを作ることができていたと思う。

バスレク同様、レクリエーション担当のサポーターが指導するのだが、今年はレクだけでなく体操を指導できる体育会系のサポーターがいたので、役割分担をして行っていたので良かった。しかしゲームや手話歌の練習がメインになって体操が少ない日もあった。昼食後は講義を聴くことがメインになるので、朝は体操で体をしっかり動かしてほしい。ストレッチなどを行う時間は十分に確保するようにしたい。そのためには移動時間や着替えをも考慮し、朝の体操の時間を確保する必要があると感じた。



④ 合唱

今年も合唱曲は、昨年度と同様の「believe」と「風になりたい」を選曲した。

「believe」は小学校や中学校でなじみのある曲であるとともに、「共生」をテーマにした歌詞で仲間とのつながりや未来を信じて進む力を歌っているため、このきらめき未来塾にリンクするところがたくさんあると思い選曲した。知っている塾生が多かったため、非常にスムーズに音をとることができた。

「風になりたい」は、もう7回目の選曲になるが、キャンプファイヤーを盛り上げ、またサンバのリズムのボディーパーカッションを入れることで、全グループが一つになることができるため選曲している。この曲も知名度が高いため、練習がかなりスムーズだった。

バス内の練習時は少し心配したが、日を重ねるごとに声が出てきて、ソプラノ歌手である下垣講師の講義の後の合唱練習ではとても大きく、心のこもった声になっていた。また、その時の練習ではボディーパーカッションも非常に盛り上がり、三日目で既に、塾生達の一体感を感じることができた。『これこそ未来塾』という声量とリズム感だった。



⑤ バーベキュー・キャンプファイヤー

卒塾式・発表会が終わり、お楽しみの時間である。洲本市の河上和慶教育長が来てくださり、4日間のカリキュラムを得てそれぞれの目標に向かって進んでいく塾生達に激励の言葉を贈っていただいた。また淡路島のコーヒー牛乳も差し入れてくださり、テンションがあがったところでバーベキューが始まった



各テーブルが8人ということもありチーム全員が座れないので、他のチームと混ざって座り交流をしてほしいと思っていたのだが、同じチームの人と食事をしたいと思う塾生が多く、小さなテーブルに集まって立って食べている姿などが見られた。毎年工夫をしているつもりなのだが、超えて交流できる時間をもっと作っていききたい。



同時に、チーム名やチーム CM、生活態度を評価する「K 報告」の表彰も行った。どのチームも笑顔でとても盛り上がっていた。全チームが賞をもらえるよう、レクリエーションの時間もあわせて多くの賞を設定した。チームの仲が深まり、自信もつくので実施していききたいと思う。

キャンプファイヤーは、今年は、練習の時間が確保できないため、チームごとの出し物をやらずにレクリエーション中心に進めることになった。レク担当サポーターに加え、学生サポーター、そして卒塾式の後の「OBセッション」に参加してもらった4人に企画・進行をお願いした。

塾生達が一番楽しむチームの出し物がなく、ファイヤー担当全員が顔を合わせるのは当日しかなく打合せもほとんどできていない中、大丈夫なのかと心配だったが、サポーター達のチームワークも良く進行し、塾生も一緒になって全体で盛り上げていた。

最後の合唱は、「Believe」「風になりたい」の他に、毎年のことだが、塾生から下垣講師の講義で歌った「ふるさと」も歌いたいという声があがったので、レクリエーションの時間に練習した「虹」も合わせて4曲歌うことになった。最後は全員で手を繋ぎ1つの輪になりながらの合唱だった。

塾生の感想

「キャンプファイヤーはとても楽しかったです。皆と肩を組んだり手をつないだりして歌を歌っていると心が一つに繋がっているような気がして気持ちが良かったです。レクリエーションも非常に面白くて、盛り上がって良かったと思います。」

「キャンプファイヤーは本当に楽しかったです、皆で体を使ってゲームをしたり、歌ったりすごくいい思い出になりました。火が小さくなるにつて、もう少しでお別れと認識させられ悲しい気持ちになりました。しかし周りの皆が励ましてくれて心が温かくなりました。本当に参加して良かったです。この出会いは一生ものです。」



(4) パネルディスカッション

昨年に引き続き、大学生、実社会で働いている社会人から話を聞くことで、塾生に今後のキャリアについて考える場とするため、パネルディスカッションをカリキュラムに取り入れた。テーマは「キャリア・職業観」とした。本年は1時間20分という限られた時間の中で、キャリア形成のために高校生である塾生が今何をすべきか、端的にパネリストからアドバイスを得るような構成とした。

昨年は、4人のパネリストのうち、米国に留学している未来塾OBとのスカイプによる中継と留学経験者がパネリストであったことから、塾生の質問が留学に偏ってしまった。そこで本年は、国内外を問わず、それぞれの立場でキャリアをどのように考え、取り組んでいるか示唆できることを目指した。

本年は、ディスカッションをより活発化させることを目指し、サポーターとしての経験もあり、社会人としてキャリアを積んでいる大森さんにファシリテーターを依頼した。

総合司会：

エデュケア・インターナショナル Inc 代表取締役 小松 としゑ 氏 (未来塾事務局アドバイザー)

ファシリテーター：

大森 健一 氏 / 大原簿記専門学校卒業・浮気税理士事務所勤務、現在税理士に向けて勉強中
2011年サポーターとして参加。OB パネルディスカッションのパネリスト

パネラー：

若杉 昌哉 氏 / Bentley University (アメリカ・マサチューセッツ州) にて学士号&修士号を取得。10月より監査法人、KPMG LLP ニューヨークオフィスに勤務予定。
15歳からニュージーランドに留学。
2010、11年サポーター・OB パネルディスカッションにパネラーとして参加。
*米国から中継で参加

前川 護之 氏 / 京都大学文学部卒業。同大学院アジア・アフリカ地域研究研究科
アフリカ地域研究専攻博士課程2回生。半年間アフリカに滞在し研究調査。
アメリカンフットボールの選手を経て現在はコーチ。

西田 千紗 氏 / 国立広島大学附属中・高等学校卒業。長崎大学医学部医学科1回生。
*長崎から中継で参加

塾生の感想

「質問をしている人の話を聞いていると、留学や海外での仕事を考えている人が多いということに驚きました。将来のことをきっちり考えているんだと感心しました。また、高校での目標を実現するために様々なことに積極的に活動している方が多いなど感じました。私も今の目標のためにやれることはやっておきたいです。」

「パネルディスカッションでは、4人の方のお話を聞き、未来塾がはじまって一番考えさせられたかと思うほど有意義になりました。自分の気持ちに正直になって、自分の道を拓いていこうとされている姿を尊敬しながらも、私自身を見つめなおすいい機会になりました。」



「パネルディスカッションは映像の問題があつて途中からしか集中することができなかつたけど、大学生の貴重なお話を聞くことができました。私は得に15歳から留学している若杉さんのお話がとても興味深く聞くことができました。あこがれるような経験を15歳の頃からしている人がいることに驚きとやらやましいなという気持ちになりました。でも行ったらやっぱりそれからの努力も沢山したと思うので、自分も留学したら見習いたいです。」

「パネルディスカッションでは、話を聞いたことによって夢ができた。海外でのボランティアを本格的に考えさせられたし、留学も今までよりいっそう現実的にとらえることができました。私は海外での就職は考えていませんが、語学にとっても興味があり、できれば大学の間に2年ほどしたいなと思っております。今は全然これから先どうなるかわかりませんが、海外のことも考えて一歩一歩進みたいと思いました。」



「キャリア形成にあたり、まず自分のしたいことを実現するために、まず何が必要なかを考えることが必要なことを知った。だから、必要なことを知り、十分な知識を蓄え、実現できるように頑張りたいと思った。」



「講師の方々に比べ、私達と年齢の近い方達のお話をきくことで大学生活や、近い将来のことをイメージできた。留学、医学の道、アメフトのコーチなど、私の知らない世界を歩んでおられて、それぞれに自分で進む道を決めて…という今の私に必要なものを持っておられる方々だと思った。」

「若杉昌哉さん、大森健一さん、前川護之さん、西田千紗さんのお話は、どれもとても参考になりました。1人1人違ういい話だったので、多くのことを学び、吸収できたと思います。」

塾生のコメントから、このパネルディスカッションのゴールとしていた、先輩から様々な経験談を聞くことで、刺激となる。また、同年代の塾生が先輩に質問する姿からも、刺激を受け、将来に向けて、何をすべきかが、おぼろげながらも考えだすことができたのではないか。パネリストについても、独自のキャリアを形成または目指し、活動していたことから、バランスが取れており、塾生に視野を広げ、いろいろな選択肢があることを、示唆できたのではないか。

特に15歳、高校1年から海外に留学している若杉さんには、現在の自身と比べ多くの塾生が、将来について考える一助になったようだ。

中継について

学生のコメントにもあった通り、米国と長崎、洲本の三元中継であったことから、データ通信量が会場のインターネット環境を上回ることもあり何度も中断してしまった。今後、会場における、インターネット環境については今後十分調査の必要性がある。また、環境が整っていない会場での対応策（パネルの構成含む）についても検討しておく必要性がある。

中継の中断によりディスカッションを活発化させることができなかつたが、前川さんの的確な判断により、洲本の会場内ではディスカッションを続けることができた。

今後について

上記の通り、本セッションは意義のあるものであったとのコメントはあったが、参加意欲がみられない塾生の姿も目立った。要因として、中継の寸断による進行がスムーズに進まなかったこと、中継の関係で会場にいるパネリストが塾生に背を向けて話していたため、分かりづらかったことがあげられる。

さらに2日目の夜19時40分からのスタートであったことから、疲れていることも考えられるが、内容に興味を抱かなかったのではないかな。 昨年は予定時間を上回るほど、多くの質問が出てが、本年は数人にとどまったことから検討の余地があるのではないかと考える。

本形式とテーマは2年実施し効果はあるが、来年度は、ライブ感を持たせ、一人でも多くの塾生が積極的に参加する、能動的なセッションとすることも一考ではないかと思う。

(5) OBセッション

今年は、卒塾生のサポーター立候補者がとても多かった。卒塾して「きらめき未来塾にかかわりたい」「後輩が、私達のように学び良い出会いをするためのサポートがしたい」という声が寄せられるのはとても嬉しいことである。

10人以上いる立候補だが、サポーターは社会人、レク・音楽担当・大学生で人数枠があるので、全員に来てもらうことは出来ない。しかし、きらめき未来塾同窓会も去年発足し、きらめき未来塾の活動を卒塾生に支えていって欲しいし、卒塾生同志の交流の輪を繋げていって欲しいという思いから、なるべく沢山に参加してもらえよう「OBセッション」という時間を卒塾式後に設けることにした。

同窓会実行委員会を開催し、そこでサポーター参加者を集め、登録・説明会を行った。結果、全日参加してもらうOBサポーターは4名、OBセッション参加のサポーターは5名となった。OBセッション参加のサポーターは、発表会と卒塾式の日研修会場入りしてもらい、OBセッションの他、塾生達がアフメーションを作成し発表するためのアドバイスをする事、キャンプファイヤーのレクリエーションそして次の日の野外学習を一緒に見学することをお願いした。

OBセッションは、パネルディスカッションの形式ではなく、塾生達を3つのチームに分け、

OBセッション参加のサポーターと全日参加しているサポーター9名がそれぞれのチームに分かれて入り交流する形で実施した。流れは、「未来塾で学んで何がかわったか。」「大学での生活や勉強」などのテーマで話はじめ、会話がはずんできたら塾生からの質問をメインに進める。進行は各サポーターに任せることとした。

4日間でディスカッションすることに慣れているし、アフメーション作成の時間から塾生に馴染んでいたこともあり、沢山の質問が飛び出てそれぞれのグループで話が盛り上がっていた。身近な先輩から高校時代の話、さらには進学や大学生活について聞く機会があまりない塾生にとって、充実した時間となったことと思う。自分の目標に繋がるすぐ先の将来の想像できたのではないだろうか。もっとOBセッションのメンバーと対話したかったという声もあった。この企画は、今後も実施していきたいと思う。



しかし次回の実施あたって改善点が考えられる。話は盛り上がっていたのだが、塾生に対してOBの数が少なく、質問に答えてもらえなかった塾生や声あまり聞こえなかった塾生もいたのではないだろうか。当日に熱で欠席になってしまったのも残念だった。もっと多くのOBを募りたい。また、卒塾式と写真撮影が少々延びたことに加え、また進行全部をOBサポーター達に任せていたが、細かい段取りを打合せできていなかったのも、机やイスの移動などに時間をとられ、開始まで時間がかかってしまった。そのためOBセッションの時間が短くなってしまった。事前に計画や打ち合わせの時間を十分に設けて行いたい。そのためにも、きらめき未来塾同窓会の活動の基盤をしっかりと作っていくことが必要である。

(6) 野外学習 大塚国際美術館の見学

昨年度は文化と自然ということで、淡路人形浄瑠璃と鳴門海峡の渦潮の見学を行ったが、今年度の野外学習は、鳴門海峡大橋を渡った所にある「大塚国際美術館」の見学である。

大塚国際美術館は、「陶板」名画美術館というおと、「陶器の大きな板」に作品に忠実な色彩大きさで再現されたものが展示されている美術館だ。陶板に再現されるため、紙やキャンバス、土壁に比べ、色が経年劣化しない作品たちが展示されている。また、大きさも忠実に再現されているため、実際の名画を見るがごとくの迫力や臨場感を味わうことができる。鳴門の美しい環境や景観を守るために、山をくりぬいて建設されたという変わった成り立ちをしていて、地下3Fから地上2Fまである5F建ての館内を全て鑑賞すると、その距離4Km程度にも及ぶ。作品だけでなく、鳴門の美しい自然も堪能することができる。

見学に先立って、前々日である3日目の夜に予備知識として、「芸術の歴史」について学ぶ時間を設けた。昨年は淡路人形浄瑠璃を鑑賞するため、淡路人形浄瑠璃資料館の館長に講師としてきていただき、人形浄瑠璃や国生み神話の舞台である淡路島の歴史も交えてお話いただいた。その時の感想に人形浄瑠璃が楽しみになったという声が多く、当日もとても熱心に鑑賞していたので、前もって学習しておくことで、より興味を持ち深い見学学習ができると感じたことから、今年もそのような時間を設けることにした。「また歴史や文化を理解し、人間的魅力のある心深き人」を理念の一つにしていることから、美術館見学をより実のあるものにしてほしい。

夜の時間であることから、講師ではなく美術を専攻していた事務局員が担当し美術の歴史また音楽教諭のサポーターもいるので音楽の歴史も同時に学んでいこうということで「大塚国際美術館がより楽しくなる音楽・美術の歴史」というテーマで鑑賞をはさみながら、時代背景・画家、作曲家の背景などを説明した。絵画は大塚国際美術館にある作品を選んで紹介した。行うにあたって芸術を身近なものと感じてもらうため面白いエピソードを紹介したり、講義を沢山受けて疲れている夜の時間なので、楽しく受けられるようにクイズを盛り込んだり、居眠りをしないようにチームで解答を考えるため輪になって座らせたり工夫をした。結果、退屈したり居眠りする塾生がいないどころか、クイズが盛り上がったのはもちろん、全員がしっかり前を向いて解説を聴き、紹介する絵画と音楽の鑑賞をしていた。



「美術や音楽が好きではなかったため、あまり期待していなかったがこれを受けたことで野外学習が楽しみになった」「美術があまり興味なかったが事前学習をすることで見たいものがみつかった」という感想があり、しっかりと役割を果たすことができ良かった。また、「先人が

あんなにもすごい歴史を残していることに感動した」「歴史を知るとより理解できるし、自分にとって意味のあるものになるということが分かった」という感想もあり、「芸術は時間や空間を超えるコミュニケーションツール」であることを伝えることもできたのではないと思う。きらめき未来塾の4つめの理念世界中の仲間とコミュニケーションできる心広き人とも通じている。

見学時も「昨日の話であったあの絵画が…」などと

いった会話を耳にしたり、壁や天井一面に書かれた絵に感動している様子がみられた。全部回るには時間が全然足りなかったが、事前学習と見学前に学芸員さんが説明をしてくれたおかげで有意義にすごせたのではないかなと思う。

美術館見学後は、鳴門公園で昼食をとり、鳴門海峡の美しい海を見ながら最後のチームの交流時間を過ごしてから帰途についた。



塾生の感想

「私は学校の選択で世界史クラスを選択していることと、1年生の時は美術クラスを選択していたことで、授業で見えていなかった部分を見れてすごく興味深いと思いました。音楽も美術も自己表現・自分の色を出すツールのようなものと学びました。野外学習が楽しみになりました」

「教科書では習わなかった隠れた事実を多く知ることができて有意義な時間になりました。世界中にたくさんあるアートワークも今日のように歴史を知るとより理解できるし、自分にとっても意味のあるものになることが分かりました。紹介された絵のなかで興味を引くものが2つあったので大塚国際美術館で、必ずチェックしようと思います。」

『音楽と美術の歴史』ワークシート

◆【音楽編】 気に入った曲、印象に残った曲はありましたか？

聴いた曲から何をどんなふう感じたか、イメージしたことを書いてください。

- ・「子犬のワルツ」でしっぽを一生懸命に追いかけている様子が頭の中に浮かんできた
- ・ラフマニノフの曲のだんだん盛り上がってくるけど、重い感じがしたのは、苦しんでいたことを表しているのかなと思った。
- ・「春」バイオリンとピアノが会話しているみたいでした。

◆【美術編】大塚美術館で是非見ようと思う絵、または時代を教えてください。

- ・ピカソの絵。青の時代でも独特なことにびっくりしました。
- ・ミケランジェロ『最後の審判』教科書でしか見たことないので、大きなのを見てみたい。
- ・リューベンス『キリスト昇架』とても印象に残りました。「フランダースの犬」に出てきた絵が本当に存在するのだとびっくりしました。
- ・全て！自分がどんな時代の絵が好きなのかということが知りたい

◆【全体を通して】あなたにとって「音楽」「美術」とは？

- ・見たり聞いたりしてすごく楽しいもの。 ・言葉にできない気持ちの部分の表現
- ・視覚 or 聴覚しか使わないはずなのに五感が刺激される、不思議ですばらしいもの。
- ・自分の知識を深めるもの、感性を高めるもの ・心を表す最高の手段
- ・言葉のいらない、どんな人にも違った見方ができる。
- ・音楽は心を落ち着かせたり、気分を楽しくさせたり、は悲しくさせる。色んな力を持っている。
- ・もっと知りたい！でも「美術」だけでなく、他の知識もつけて繋げていきたい。
- ・心ある人間だからこそ楽しむことのできる特別なこと！

8. 塾生について

塾生の様子

毎年、塾生のカラーは違っているものだが、やはり未来塾に参加する学生はとても意識が高く、真面目である。卒塾生から話を聞いたとき、課題などに対する取り組み方が学校とは全然違うといていたのが印象的である。そんな中でも今年の塾生達は殊に、真面目だったと思う。

最初は、バス内のアイスブレイキングをした時の反応が弱く大人しすぎると不安になったが、時間が経つにつれて活発な姿を見せるようになっていった。特にディスカッションの時間がこれまでで一番と思うくらい熱心に意見交換されていた。振り返りシートからも「ディスカッションが一番印象に残っている」という感想が多くみられ、同年代の仲間達と真摯に向き合ったことが塾生達にとって一番の経験になったようである。

ディスカッション後はチームでまとめた意見を発表し、講師に聞いて頂きコメントをもらうようにしたのだが、チーム全員が「発表したい！！」と手を挙げる姿はとても素晴らしく、発表後の講師の一言の際には、全員が椅子を講師にむけて姿勢を正していることに気づき驚いた。本当に純粋で学び聞くことを吸収しようとしている様子が伺えた。

途中、ディスカッションがヒートアップしすぎて、泣き出す子がでたり、サポーターとぶつかりあうチームもあった。それを乗り越え、相手を尊重し意見を述べることを学んだ塾生達の絆はとても強くなっていたようだった。



チームの交流

毎年課題になっているチーム間のコミュニケーションについて、チーム内での仲が深まるほど、チームを越えての交流が少なくなってくる。卒塾後に、チーム以外の塾生とも話したかったという声が多く聞かれるのだが。

初日のオリエンテーションを工夫して他チームと交流することができたせいか、他チームとの関わりもできていたように感じる。また、チームで行う課題にたいしても「あのチームの発表が凄かった」などと、他チームに目を向けている様子も伺えた。

しかし、全体で交流できるバーベキューでの様子をみると、やはりチームで固まってしまっていたので、次年度は全体やチームの人数を検討するとともに「きらめき未来塾生」としての仲間意識を持ってもらい、卒塾後のネットワーク作りをしていきたい。



合宿生活

生活態度を採点する「K (Kappatsu) 報告」は今年も行った。1位になるぞと、どのチームもきびきびと行動し、移動が多い中5分前行動を守っていた。1回、朝の体操時に女子が寝坊して大遅刻をチームがあった。皆の前で反省を述べてもらうことにしたが、十分すぎる程、反省していたようだった。



夜は、いつも2回の見回りを行っている。いつも離れたログハウスに宿泊している塾生は、コソコソと部屋を抜け出しているのを発見するのだが、今年はその姿は1度も見られなかった。消灯時間を守っていないのは例年通りなのだが、皆遅くまで課題に取り組んでいたり、一生懸命に1日の振り返りシートを書いたのには驚いた。部屋に戻ってもディスカッションが行われていたチームもあるようだ。それでも消灯時間は守ることがきまりなので、早く寝るように声をかけて戻ってきた。抜き打ちチェックなどが全く必要ない塾生達だった。



2日目に、帰りたい、ディスカッションに入りたくないと言っている塾生がいた。事務局やチーム担当サポーター、サポーターリーダーで情報を共有し、様子を見ることにしたが、一時のホームシックで、チーム内に気のあう友達もいたことで、若干否定的な感想文が多いものの、その後も全カリキュラムにちゃんと参加していた。その他は、大きな問題がおこることも体調不良者がでることもなく、全カリキュラムをスムーズに行うことができた。

最後、気になる点は、バス内や施設内での使ったものの後片付けと、忘れ物の多さである。学習面の指導だけでなく、生活面の指導も徹底していきたい。

9. サポーターについて

サポーター募集と選抜

今年のサポーターは、社会人5名、学生6名、レクリエーション担当1名、音楽担当2名という構成になった。

社会人は、協賛や協力をしていただいている企業からの参加で、学生サポーターは、卒塾生や、未来塾の発足当初からお世話になっている方からのご紹介などである。

卒塾生サポーターについては、OBセッションの項でも触れたが立候補者が多く、同窓会実行委員会が中心となって登録説明会を行い、サポーターの役割や心得について話し選抜を行った。

専門的な指導ができることが求められる、レクリエーション担当と音楽担当であるが、レク担当は、毎年来てもらっているサポーターが今年は1人しか参加できず、大阪レクリエーション協会や体育専攻学生などに声を掛け募集した。しかし、キャンプシーズンや行事と重なっていたりでなかなか見つからない。そこで、卒塾生サポーターに、レクやコミュニケーション作りを担当している前田理事が研修を行い、レク担当サポーターのフォローをしてもらうことにした。また、今年初参加の学生サポーターが、体育系の部活をしていて筋力トレーニングが趣味ということだったので、朝の体操の指導をお願いした。

音楽も欠員がでてしまったため、京都教育大学の音楽科の先生を紹介してもらい、学生に声を掛けてもらったところ、声楽専攻の大学院生に参加してもらえることになった。

サポーターの役割と活動

サポーターの役割は、主に塾生の生活や学習面のサポートと塾運営のサポートで、心構えとして次のことを呼びかけている。

- ・ 塾生から信頼され、頼られる先輩になる
- ・ 塾生とのコミュニケーション、議論を活発に行う
- ・ 塾生を指導する立場であることを意識し、自らがルールを守り、行動する
- ・ 自分自身の研修の場である

塾生のサポートにおいては、2人がペアになってチームを担当する基本形にし、チームミーティングの時間は2人とも担当チームに入るが、ディスカッションの時間は、シフトを決め、1人で担当以外のチームに入るといった形をとった。塾生が色々なサポーターと関わりコミュニケーションをとれるようにするため、また、生活面において、サポーターが担当外チームも指導できるようにするためだ。そうすると、夜のミーティングの時間、サポーターリーダーを中心に、担当したディスカッションのチームの様子などを報告することによって、事務局・サポーター全員で塾生の情報を共有することができた。

今年は、塾生も真面目だがサポーターもとても真面目であり、塾生の様子を細やかに報告していて、向き合い方や接し方をそれぞれが考えているようだった。

運営のサポートにおいては、こちらもシフトを組み、講師担当（アテンドとインタビュー）、講義の司会（講師紹介やディスカッション全体進行）、パワーポイント等の操作を、均等に担当してもらうこととした。今年は初参加のサポーターが多く、全体の流れを掴めていなく戸惑っている様子が見られたが、それぞれが役割を務めてくれていた。ただ、司会だけは向き不向きがあると感じたので、次回からは1講義ごとに交代し全員が担当するのではなく、担当者を絞って決めておこうと思う。

毎回、資料の場所、講師の水やおしぼりの場所、控室、インタビュー会場がわからないから徹底してほしいという声がある。もちろん連絡不足な面もあるが、分からないことは積極的に質問する・確認するという姿勢をとってほしいというのは毎年感じていることである。しかし、今年は言われずとも協力して行ったり、こういう所をもっと指導してほしいと提案があったり、自ら行動してくれる面も多く、サポーター同志のコミュニケーションはもちろん、事務局との連携もとれていてスタッフとしての一体感があったように感じる。

サポーターの役割、主に塾生との関わりや、運営スタッフとしての事務局との関わりについては、毎年試行錯誤していたが、今年はとてもうまくいったように思う。チーム担当やシフト表などの体制に加え、全員が真摯に考え行動してくれたおかげだろう。

そしてその姿勢が、塾生が問題を起こした時にサポーターのダメージになっていた。帰りたいといいだす子がいた時、ディスカッションで揉めた時など、特に年齢の若いサポーターが困惑している様子がみられた。卒塾生サポーターは、全体の流れも解っており塾生目線でアドバイスもできるので頼もしいのだが、そういった時に社会人や経験のあるサポーターのフォローが重要になってくる。

サポーターは、上記の心構えの他、情報共有しながら各々の役割でチームワークよく活動することが求められる。強い責任感と行動力を持った人、そしてバランスの良い人選をしなければならぬ。また、今後は、事前研修の実施方法や内容も見直し、実のある研修を行って本番に臨むようにしたい。



事前研修会の様子（2013/7/27 実施）

サポーターの意見

1. ディスカッションについて

ポイントや意義を事前に案内文にて説明し、塾当日のミーティングで練習したらよいのではないか。

2. バスについて

- ・欠員発生時を想定した配車表を用意してほしい。
- ・帰りのバスの配車表が全員に周知されていなかった。
- ・バスレクの景品は分配しやすい品物にしてほしい。

3. 講義

- ・初日の机配置が変更になってしまったので、チームがバラバラになってしまった。
- ・講義数を減らし、一講義の時間を多くし、講師の時間を増やしてほしい。
- ・事前に講師からレジュメ・スライドを入手し、塾生案内文に付け送付し、予習を義務付けたらよいのではないか。
- ・野外研修を増やす、または体を動かす講義を取り入れてほしい。

4. パネルディスカッション

- ・回線の不具合…良質な回線を有料でも確保が必要なのではないか。
- ・会場にいるパネリストの方々が高校生の方を向いていなかったため聞き取りづらかった。

5. 講義／食事／講義の時間配分

- ・スケジュールが詰め込み過ぎではないか。食事時間を十分に確保する事と移動時間を考慮してほしい。

6. 講師インタビュー

- ・インタビューの準備や場所の周知を徹底してほしい。

7. 個人情報の扱い

- ・サポーターに渡した塾生名簿（持病等が記載）が机のうえに置かれてあり、塾生が勝手に見ていた。→個人情報取り扱いの注意点を徹底する。

8. OBセッションの充実

- ・十分な時間を確保してほしい。
- ・塾生対OBの比率（OB数を増やし、7～8人のグループでセッションしたい。）

9. その他 塾生・チーム関係

- ・塾生チームの期間内組替してはどうか
（例）Aチームを2つに分けA1・A2、同じくBチームをB1・B2として、
「A1とB1」、「A2とB2」でディベート実施をする。
- ・配られる名刺に連絡先等を書く時間がなかったため、塾生に案内発送時に名刺を渡し、事前に連絡先名事前に記載してもらい、当日必携としてはどうか。
- ・サポーター初参加と経験者（塾生OB含）の組合せでチーム担当がベストではないか。

10. 塾生の声～これからの目標

まとめシート：「未来塾で学んだことを、あなたのこれからの生活、学習または目標、将来の夢の実現のために、どのように役立てていきますか？」より抜粋

『僕は、未来塾で学んだことが沢山あります。特に「積極性」「自信」「視点」を身につけていこうと思いました。

「積極性」は、自分のチームや他のチームにも、意見を進んで発表し、疑問があれば聞く、そんな人が沢山いました。「積極性」はどんな分野においても重要であると思うので、失敗を恐れない心を持ち続け、いかなることにも「積極性」を発揮していきたいです。

僕はよくネガティブな思考になります。「もし失敗したら？」色々なことを色々状況で想像してしまいます。これからは僕は「自信」をつけ、物事をしっかりと判断していける、やらないよりはやってみるという意志を身につけたいです。

自分自身で多くの考えや意見を持つことは大切であり、重要です。ですが未来塾で皆の夢や経験、考えを聞いて、一人でそれらを持つことは無理だと思いました。だから、もっと多くの友人を作り、多種多様な分野の友人から意見をもらうことで自分の視点を広げていきたいです。』



『たくさんの講義を聞いて、新しい言葉や知らなかったこと、考えを知りました。レベルが高く、自分が分からない事もあったので、もっと勉強していきたいです。夢や志の話が多く出てきましたが、自己を見つめる良い機会になりました。自分の夢があいまいだった事が分かったので、実現に向けて役立てていきたいです。普段の生活の中で体験できないことをたくさんできたと思います。社会に積極的に参加したいです。』



『夢について素晴らしい意見を多く聞くことができたので、これまでの自分の考えに手に入れた情報を加え、これからの自分の人生に新しい風を吹き込みたい。その他にも、この場で出会えた同志たちと交わしたディスカッション、共に過ごした時間で養われた感性などを今後の学校生活、社会生活の糧にしていこうと思った。これまで以上に積極的に人と関わり、自らの行動に自信を持ち、世界でたのしく活動できる人間になりたい。』



『未来塾で学ぶ以前は、同年代との関わりがすごく苦手で、いつも避けていました、しかし、こういった場で色々な意見が飛びかい、とても有意義にディスカッションを受けることができました。また、講義では、自分の考え方を改めさせてくれるものもありました。生活面では、相手のことを思いやる。学習面ではこれからの授業を積極的に取り組み、自分の知識の糧となるような、学習の仕方をしようと思いました。そして、自分の将来を叶えるためにもこれからの1日1日を大切に、自分のためになるような生活をしていきたいです。』

『私はまず講義の中で、たくさんの知識と考え方を学びました。それからグループで話し合いをしている中で、自分が考えていなかった視点を知ることができ、それを伝える力を持つ同世代の子にかなりの影響を受けました。今、私は1日1日を大切にできていない気がして、もっと今にできることを自分で考え、自分の意志を持ってやっていきたいです。』



『この塾で僕は、自分と同年代の人達の様々な思いや考えを知ってすごく感動しました。やはり、人の意見を聞いたり自分の意見を発言することはとても大事だと思いました。これからの学校生活で、僕は、他人の意見を尊重しつつ、自分の意見を踏まえて互いに納得できるような話し合いなどをしていきたいです。また、新しい出会いもしていきたいと思います。地域のボランティアなどに参加して、今まで出会ったことがなかった人達と話し合っ、交流を深めたいです。』



『色々な分野の話聞いて視野がすごく広がったと思う。佐野講師がおっしゃっていた「スポットライトの幅を広げる」ことができたと思う。この未来塾を機にもっと色々なことを知っていき、多方向から物事を見つめられるようになりたい。学校と違い、皆が積極的に質問したり意見をだして刺激を受けた。自分も後半には手を挙げれるようになったので、これからもっと積極的になっていきたい。』

『こんなに具体的に自分の夢を考えて文字にしたり、実際に話す言葉にした経験は今までありませんでした。ものすごく「自分を知る」ということで理解することにつながったと思います。自分の夢に対する今の自分の実力、視野、やりたい事を知り、最後に水野講師が話してくださったように、どんどん追求していく精神（今日はここまでできた、でもまだまだ出来るんじゃないか）で、「出来てから1万回やれ」という言葉を大事に、毎日を大切に、重く、そして楽しく生きたいです！』

『この未来塾のおかげで今まで持っていた夢を希望に変えようと思いました。自分は先を見据える事が苦手なので、目の前にある目標に全力でつき進み、どんなに苦勞をしても目標を叶えます。今回、出会った仲間達との絆を大切にしていきます。そして目標を叶えた後も、新たに目標を立て最後まで挑戦していく人生にしたいです。』



1 1. 保護者の声（参加塾生父母アンケートより）

1. お子さんから、当塾に参加された感想の報告を受けられましたか？
また、そのことについてお子さんと話をされましたか？

① カリキュラムについて

- ・ 事前に送付された日程表を見て講義の多さに驚いたが、子供にとっては苦ではなかったようだった。
- ・ 朝昼晩、規則正しい生活で経験豊かな方々の講義をサポートの方のお話が聞けて良かった。
- ・ ハードだった
- ・ 文句なしです。CM作りが大変でした。
- ・ どのカリキュラムの退屈なものは一つもなく、とても楽しかったようだが、スケジュールは詰め込み過ぎの感があったようだった。
- ・ 講義を受けるのも良い体験だと思ったが、ディスカッションやミーティングなど参加型の体験もあって良い経験になった
- ・ 美術館見学が楽しかったそうで、もっと時間が欲しかった、大学生になったらゆっくり見に行きたいと言っていた。
- ・ 盛沢山の講義と楽しいレクリエーションですごく良かった。行きのバスでレクリエーションをしてもらえたので到着してから皆とのコミュニケーションが取りやすかったと言っていた。

② 講義について

- ・ 普段接するができないような方々からの講義に感動したり、身にしみるような名言があったようで、ノートにも書き込んでいた。
- ・ 堅苦しくなく、興味深い講義だった。
- ・ 興味をもてないものもあったようだった。
- ・ 充実していた。皆の意識が高く、意見を持っているからとのこと。
- ・ それぞれの講師が将来設計に対する体験、考え方を具体的に話して頂いたことが心に残っているようだ。
- ・ 自分のことを深く考える機会ができたようだ。
- ・ 内容が深く引き付けられ時間が短く感じられた。講義を受けるにつれ、世の中の動きがわかってきた。しかし、専門的な内容で理解し難い講義もあったようだ。

③ ミーティングについて

- ・ 回数を重ねる毎にミーティングをするチームの団結が強まり、特にCM作りはチームの絆を深めることができたようだ。
- ・ たくさんの人との出会い、ディスカッションから自分の役割を見いだせたように思う。
- ・ リーダーの役割や、話合いの進め方、皆の意見の引き出し方等、発見が沢山あったようだ。
- ・ 日毎に意見を言えるようになり、少し成長できたと言っていた、
- ・ 全国から集まった知らない人達ばかりのミーティングはとても刺激になり、参考になることばかりだった。
- ・ 他の子供達が堂々と自分の意見を発言することに最初は戸惑っていたが、慣れてくると自分も発言できるようになり、それが大きな自信になったようだった。
- ・ チームの仲間とは本当に仲良くなり、日を追うごとにチームワークが強まり楽しかったようだ。未来塾を通して知り合えた仲間と夢や目標を話合い、ますます前向きになったように感じる。

2. 自分の進路や、自分の夢などに関して、何か話されていましたか？

- ・具体的な話はしていないが、今回参加したことで本人は何か考えた事があるようだ。
- ・自分の進路についてそれなりに考えていた子だが、他の子の色々な夢を聞いて、新たに考える、考えさせられる部分があったように思う。
- ・講師の話や留学の話聞いて、自国のことを知り、相手国のことも知ることができるので外にでる経験がいかに大事かを感じた。もっと自分の将来について考え、幅広い視野でものを見て、考え、定めていきたいと言っていた。
- ・今までと少し、物事の考え方のアプローチが変わってきたようだ。テストがあるから勉強する、安定性があるから看護師になると考えから、夢を実現するために勉強が必要であり、看護師になってから実現したいことが見つけた様だ。
- ・「色々なことを考えて頭がパンクしそう」と目をキラキラさせて帰ってきた。まだ明確にはないが、自分の進みたい方向性が見えてきたようだ。
- ・具体的な進路は考えてないようだが、何かをやらなくてはと感じたのか、ボランティア活動をするのに何かからすればよいのかなど調べている。
- ・進路については、模索中のように、すでに進路をきめた夢に向かって歩み始めている高校生と出会い、刺激を受けたようでした。

3. 上記2に関し、どのようなアドバイスをなされましたか。

- ・小さなことでも良いので自分のできる範囲で少しずつ頑張るように伝えた。
- ・自分で考えて、こうしたいと決めたことを親として精一杯応援したいと思っている。夢をあきらめず、時間がかかっても、回り道をして、自分らしく生きていって欲しいと願っている。
- ・将来の目標（夢）をどこに置くかについては、あまり難しくは考えないで、その時々に応じて決めても良いと思う。しかし自分にこれという目標が見つかった時には、がむしゃらに夢に向かって突き進んでもらいたいと思います。
- ・学校内外、習い事、他の人との関わりを持つこと、これからも積極的に行ってほしいとアドバイスした。
- ・今までの生活態度を反省する気持ちが芽生えた？ようで、自分を変えることは今からでも遅くはないとアドバイスした。
- ・沢山の事に興味を持ち、まずは一步踏み出してみる事を進めた。

4. 来年の開塾に関し、ご子息からの感想などを踏まえ、保護者の立場から当塾へのご意見、アドバイスをお願いします。

- ・世界の狭い子供にとっては色々な世界を調べるきっかけとなる塾だと感謝している。多くの子に機会が有るといいと思う。
- ・とても良い経験をさせて頂いたと思う。もし可能であれば、半年後くらいにフォローアップの会の様なものがあれば塾生の相互の成長を確かめあえ、また絆も深まるのではないかなと思う。
- ・今回、初めてこのような取り組みがあることを知った。4泊5日という、長い時間、将来のことを考えてディスカッションしたり、大先輩の話をきいたりする機会はないので、今後共、是非続けてほしい。
- ・帰ってきた時、体が疲れているはずなのに、気持ちが高揚し充実した様子だった。カリキュラムを見ると講義は4日間だが、内容の濃いものを感じられた。スケジュールの中に短時間で良いのでストレッチや体を動かす時間をとったら、その後の講義に集中できるのではと感じた。
- ・リーダーミーティングがあったらよいのではないかな、食事の量が多かった、部屋割りはチーム混合だと、交流が生まれるのではないかな。
- ・あっという間の高校時代の3年間、忙しくも進路決定など悩みも多い中でどう過ごし、どう成長課程を刻むか、本気で考えぶつけ合う機会をいただき、貴重な体験をさせて頂いたとありがたく思っている。

1 2. 事務局活動～きらめき未来塾 2013 関連

H24年 12月	<ul style="list-style-type: none"> ・開催地をウェルネスパーク五色に決定 ・開催期間を平成25年8月19日～8月23日の4泊5日に決定 ・塾生の募集人数（東京、広島地区含）を70名に決定 ・カリキュラム（案）、講師依頼、スケジュール（案）について検討 ・パンフレット（案）を作成
H25年 1月・2月	<ul style="list-style-type: none"> ・カリキュラム策定、講師依頼 ・パンフレット作成 ・事務局打合せ（カリキュラム、サポーター、塾生募集 等について）
3月	<ul style="list-style-type: none"> ・後援、協賛申請 後援申請：大阪府、兵庫県、京都府、広島県、宮城県、香川県の各教育委員会、大阪府、兵庫県、京都府の各私立中高連、淡路教育事務所、洲本市、登米市、飛騨市、小豆島町の各教育委員会、関西経済同友会、（一社）アスリートネットワーク、淡路信用金庫、洲本商工会議所、（一社）淡路青年会議所、神戸新聞社、産業経済新聞社 協賛申請：大阪大淀、大阪梅田、大阪北梅田のロータリークラブ ・事務局打合せ（カリキュラム、サポーター、塾生募集 等について）
4月	<ul style="list-style-type: none"> ・パンフレット完成 ・塾長 教育委員会訪問 塾生募集協力依頼 ・社会人サポーターの派遣を数社に依頼開始 ・レクリエーションサポーター、音楽サポーター、学生サポーター依頼開始 ・各企業等に協賛、寄付依頼状送付 ・事務局打合せ（カリキュラム、サポーター、塾生募集 等について）
5月	<ul style="list-style-type: none"> ・同窓会実行委員会にてOBサポーター登録、説明会（於 事務局4階会議室） ・事務局打合せ（サポーター募集、合同研修会内容 等について）
6月	<ul style="list-style-type: none"> ・塾生募集、受付開始 大阪府、兵庫県、京都府、広島県、香川県、の各教育委員会、並びに大阪府、兵庫県、京都府、各私立中高連のご協力により塾生募集を行う。加えて、東日本大震災の被災地からの招待枠を設定し、宮城県 登米市と同教育委員会のご協力をいただき募集を行う。また、協賛社であるアフラックのがん児奨学生対象にも募集を行った。 HP 他からの一般募集も行った。 ・洲本市訪問、打合せ（教育委員会、研修会場） ・サポーター確定 ・マニュアルの作成、合同研修会準備 ・事務局打合せ（事務局役割分担、資料作成、オリエンテーション 等について）
7月	<ul style="list-style-type: none"> ・塾生確定（入塾証発送、学校教育委員会へ連絡） ・各講師資料の手配、準備 ・塾生、サポーターへの配付物、テキスト作成 ・同窓会実行委員会にてOBセッション内容検討（於 事務局） ・音楽サポーター打合せ ・事務局、サポーター合同研修会開催（於 スポーツドリームファクトリー） ・事務局打合せ（チームミーティング、パネルディスカッション進行 等について）
8月	<ul style="list-style-type: none"> ・サポーターレクリエーション研修、OBセッション打合せ（於 事務局4階会議室） ・参加塾生、参加高校、後援各位へテキスト等 案内発送 ・会場への詳細連絡（人数、会場等） ・事務局打合せ（カリキュラム、資料、備品等、最終確認）
9月	<ul style="list-style-type: none"> ・報告書、DVD等作成 ・事務局打合せ（反省と総括）
10月	<ul style="list-style-type: none"> ・報告書、DVD等発送作業

13. 事務局総括～反省と来年に向けて

昨年に引き続き開催地は淡路島。新大阪集合は当日欠席者が数名あったほかは特に問題もなく、現地集合の塾生も時間通りに集合し、塾生の受け入れはスムーズに行えた。現地に到着するまでのバス内でも、最初は緊張していた塾生達も、サポーターが盛り上げてくれたお陰で時間の経過と共に緊張感が和らいていったようだ。

入塾式も全体的に上手く進行した。齋藤理事長が開塾の挨拶の中で、「日本の将来を考える時、皆さんのような若い世代の物の考え方、リーダーシップのあり方が非常に重要となる。きらめき未来塾の基本理念にあるような人材に育て欲しい。そのための一歩としてこの塾でしっかり学んで下さい。」と激励された。入塾宣誓は、男女各1人ずつから力強い宣誓が行われ、塾生のモチベーションが高揚した様子が感じられた。

講義内容について各講師には、事前にきらめき未来塾の設立趣旨や基本理念について資料を送付し、講義の中で少しでも触れていただきたいとお願ひした。夢や目標をもって努力すること、それを継続することの大切さなどについて、講師の方々の経験を通じて話をしていただいた。お陰で講義後の質問も時間内に対応できないほど多くあり、ディスカッションでも活発に意見を交換しあう様子が伺えた。

野外学習は、大塚国際美術館への見学をした。展示物の内容をより理解してもらうために、素養のある事務局スタッフ・サポーターが事前研修を行った。当日の学芸員からの説明と合わせて、より理解を深めることができたのではないだろうか。

パネルディスカッションでは、スカイプ中継がうまくつながらず、途中で中断を余儀なくされてしまった。せっかくの集中している塾生たちの緊張感を保つのが困難になってしまった印象を残したのが残念だった。

塾生の融和協調をはかる目的で、オリエンテーションに新しい試みを取り入れた。印象の残る自己紹介方法についてキャッチコピー等を示唆した結果、とても楽しいミーティングになった。また、チームミーティングの課題として、例年までチーム旗作りをしていたが、今年はチームのカラーを映像で表現することとした。ビデオカメラ「チームCM」を撮影し自分のチームを最大1分間で表現する、話合いを重ね、朝早く起きて撮影するなど、苦勞しながらも熱心に取り組んでいた。

毎年ではあるが、猛暑の中、四泊五日の日程をこなすのは、参加者全員が体的に大変である。しかし、きらめき未来塾2013は、天候にも恵まれ事故もなく成功裡に終了した。開催地 洲本市の関係者皆様、講師の方々、サポーターを始めとして、協賛・ご寄付いただいた団体・法人・個人の皆さま、そして会員の皆さま、本当にたくさんのご協力をいただいた。このことに感謝申し上げると共に、今年の実績を来年へといかし、つなげていきたい。来年はきらめき未来塾の開塾10回目を迎える。今まで以上に充実した区切りの年となりますように。



14. 後援・協賛・理事会

後援・協賛（順不同）

大阪府教育委員会	兵庫県教育委員会	京都府教育委員会
広島県教育委員会	香川県教育委員会	宮城県教育委員会
淡路教育事務所	洲本市教育委員会	登米市教育委員会
飛騨市教育委員会	小豆島町教育委員会	大阪私立中学校高等学校連合会
兵庫県私立中学高等学校連合会	京都府私立中学高等学校連合会	アブラック(アメリカンファミリー生命保険会社)
大阪大淀ロータリークラブ	大阪北梅田ロータリークラブ	大阪梅田ロータリークラブ
(一社)アスリートネットワーク	(一社)関西経済同友会	(一社)淡路青年会議所
洲本市	登米市	飛騨市
淡路信用金庫	洲本商工会議所	
産業経済新聞社	神戸新聞社	

理事会

理事長	齋藤 洋一	(神戸大学名誉教授 社会福祉法人 恩賜財団 大阪府済生会 副会長)
副理事長	水野 彌一	(京都大学アメリカンフットボール部 前監督)
理事(名誉塾長)	大竹 美喜	(アブラック(アメリカンファミリー生命保険会社)創業者・最高顧問)
理事(発起人代表)	大石 正守	(国際保険株式会社 代表取締役会長)
副理事長(塾長)	吉澤 健	(元大阪府副知事/前 四国大学大学院講師)
理事(塾長補佐)	前田 嘉昭	(大阪教育大学講師/元大阪府立阿倍野高等学校 校長)
理事	柳本 晶一	(アテネ・北京オリンピック女子バレーボール日本代表監督 一般社団法人アスリートネットワーク 理事長)
理事	山田 茂善	(太陽 ASG 有限責任監査法人 総括代表社員代行兼大阪事務所長 公認会計士)
理事	若原 康正	(大阪緑風観光株式会社 大阪はとバス 代表取締役社長)
理事	山幡 一雄	(大阪緑風観光株式会社 大阪はとバス 専務取締役 国際保険株式会社 顧問)
理事	下垣 真希	(ソプラノ歌手 名城大学大学院 多文化共生論講師/名城大学 ドイツ語講師)
理事	鈴木 規夫	(社団法人日本ゴルフツアー機構 理事)
理事	松浦 三郎	(一般社団法人学習評価研修所 所長)
理事(事務局長)	西澤 良臣	(国際保険株式会社 顧問)
監事	浮氣 利廣	(浮氣税理士事務所 税理士)
特別顧問	野田 智義	(特定非営利活動法人 ISL 理事長 経営学博士)
特別顧問	濱本 英輔	(株式会社ロッテ 顧問)
特別顧問	坪井 一字	(大阪経済法科大学 教養学部教授、元参議院議員)
特別顧問	松岡 大藏	(税理士 大阪国税局元徴収部長 桜美会(国税局OB会)会長)
特別顧問	瀧川 好美	(淡路信用金庫 会長)
特別顧問	木下 紘一	(洲本商工会議所 会頭、ホテルニューアワジ 代表取締役社長)

ご協賛いただいた法人・団体・個人 〈敬称略 順不動〉

法人・団体

アートコーポレーション株式会社	株式会社京伸	東神電気株式会社
株式会社 RCC 文化センター	医療法人 健昌会	株式会社トーア
株式会社 I A G コーポレーション	寛仁建設株式会社	ドリームサーカス株式会社
株式会社アイドマ	特定非営利活動法人建友会	内外電機株式会社
株式会社アイビーエス	国際保険株式会社	株式会社 菜花野
株式会社 あうん	株式会社鼓舞マネジメント	株式会社日商エイジェンシー
アクトレップ株式会社	株式会社ジイテック	株式会社ニットーファミリー
アフラック(アメリカンファミリー生命保険会社)	株式会社シズルジャパン	株式会社日豊社
株式会社 アテナ	株式会社ジャパンファミリー	日本興亜損害保険株式会社
アドベンチャーコーチング株式会社	有限会社信成サービス	株式会社フォーライフ
株式会社アラスカ	スポーツニッポン新聞社	福島鯉株式会社
淡路信用金庫	洲本商工会議所	株式会社フレディ・カンパニー
株式会社ウィング	社会福祉法人 千種会	北海道ファミリー株式会社
株式会社魚萬珍味堂	株式会社損害保険ジャパン	株式会社ホテルニューアワジ
浮気税理士事務所	タイコー株式会社	ホテルニューアワジ プラザ淡路島
弁護士法人梅ヶ枝中央法律事務所	太陽 A S G 有限責任監査法人	株式会社ポブラコーポレーション
エース侵害保険株式会社	中国企業株式会社	弁護士法人宮崎総合法律事務所
株式会社エヌウィック	株式会社中国放送	医療法人 聖誕会 宮崎レディースクリニック
大阪大淀ロータリークラブ	有限会社長和	株式会社ミレニアム
大阪緑風観光株式会社	ツーサン株式会社	読売ゴルフ株式会社
関西アイエヌエスサービス株式会社	D O S Capital 株式会社	株式会社 Lien
九州共栄ファミリー株式会社	株式会社ディ・ライツ	ワールドツリー
株式会社キョードー大阪	株式会社デヴォーション	

他記載不可の法人・団体を含む 合計 74 法人・団体

個人

磯中 淳	菊地 清市	下垣 真希	遠越 英行	原野 昭和	矢野 晶一郎
植田 寛重	岸 孝二	下坂 友三	伴野 國久	東野 晃三	山田 克明
浮気 利廣	木村 道弘	新貝 寿行	中川 卓爾	藤井 誠	山根 廣子
	國谷 昌賢	杉本 香世子	田村 廣子	増井 浩	山幡 一雄
大川 泰貴	黒岩 祐治	杉本 庄司	西澤 昌彦	松井 秀文	闇雲 治男
大竹 美喜	合田 敏弘	鈴木 規夫	西澤 良臣	松尾 雅彦	吉澤 健
岡本 英三	小原 和重	住川 功	西野 純弘	松岡 大藏	米津 加代子
奥村 繁夫	小松としゑ	瀬戸 真弓	西村 和能	松澤 一夫	若杉 公一
加地 章	小山 健治	曾我 省吾	野田 智義	松葉 光生	脇田 和美
勝田 泰久	齋藤 洋一	高橋 直英	野々上 孝義	水野 彌一	和田谷 笑子
加藤 仁	齋藤 鞠子	瀧澤 和子	延原 敏朗	宮内 健	渡部 泰平
河合 努	定久 彰利	竹岡 和彦	中澤 尚文	初山 敏雄	
川壁 正彦	塩崎 隆幸	田村 廣子	畑 守人	森本 一品	
川島 哲三	篠原 良洋	坪井 一字	濱本 英輔	矢島 秀勝	
木内 正俊	清水 博	転法輪 信昭	原納 公也	矢野 巖	

他記載不可の方を含む 合計 88 名

2013 年 10 月 30 日現在

16. きらめき未来塾 2013 スタッフ・サポーター

大阪事務局	事務局長	西澤	良臣
	次長	舟尾	逸弘
大阪事務局	スタッフ	近藤	由美子
		櫻井	宇多
		西村	和能
		三谷	尚子
		宮城	裕美
		板橋	祐輔
		小谷	登
広島事務局	事務局長	神田	雪子
広島事務局	スタッフ	新谷	雅司
		山崎	章子
事務局アドバイザー		小松	としゑ
		高橋	道子
		宮原	あけみ
写真担当		伴野	國久
映像担当		吉川	努
サポーター		石松	千咲
		井東	直人
		大畑	和樹
		神谷	将志
		神田	理沙
		國嶋	柚華
		齊藤	弘之
		高木	祐輔
		西田	成
		平本	羽純
		宮地	賢和
		盛一	季美香
		山内	美貴
		吉岡	奏恵
パネルディスカッション		大森	健一
		西田	千紗
		前川	護之
		若杉	昌哉
OBセッション		小野	晃弘
		菅野	優也
		武	宏美
		谷河	大輔

きらめき未来塾事務局

〒530-0044 大阪市北区東天満 1-12-13 IAG 天満ビル5階

TEL 06-6357-3335 FAX 06-6357-3354

mail: info@kiramekimiraijuku.jp

URL: <http://kiramekimiraijuku.jp>

未来塾へのご感想、ご意見をお待ちしております